

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

石川県 加賀市

自治体名：石川県加賀市

担当課名：教育委員会事務局 学校指導課・スポーツ課

電話番号：学校指導課 0761-72-7886・スポーツ課 0761-72-7985

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	305.87 km ²
人口	61,686人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	1,455人
部活動数	38部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

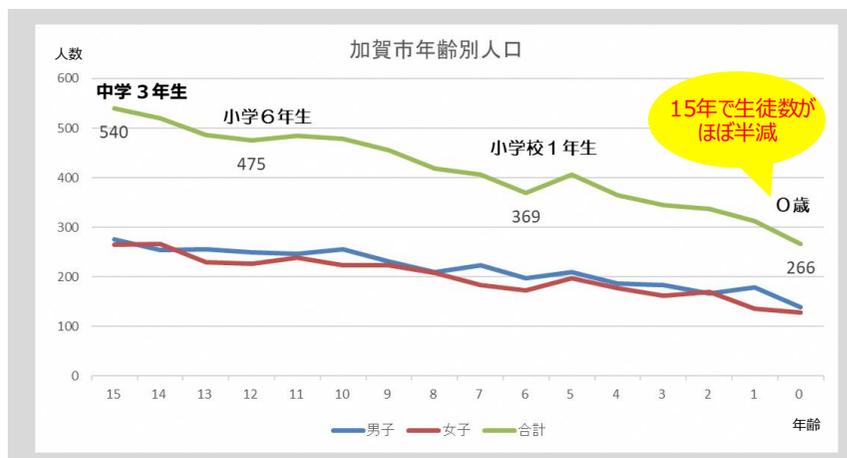
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、市内中学校の運動部は、学校ごとに部活動数に違いはあるものの競技数としては11競技（男女別）、部活動数としては38部が活動している。少子化に伴い、現在女子ソフトボール部が他の中学校と合同チームによる大会参加を行っている。また、K中のソフトボール部は、新規入部がなく令和7年度から入部停止予定である。さらに、Y中のハンドボール部についても令和7年度から入部停止予定である。

加賀市の出生数から、市内中学校の部活は、今後もさらに縮小、廃部が容易に予想される。

子どもたちのスポーツ・文化環境を持続可能するために、加賀市としては令和4年度から検討会を、令和5年度からは推進委員会を立ち上げ、今後子どもたちのスポーツ・文化活動のあり方についての議論を重ねてきた。そして、令和6年8月より、新たなスポーツ・文化活動の場として7競技8団体による「地域クラブ」を開設した。「地域クラブ」は、自ら「選択」し、他校の生徒などの「多様な人と関わる」ことができ、活動の「専門性の追求」できることを目的とし、休日に活動をしている。現在では、市内中学1・2年生の3割にあたる250名を超える中学生が参加している。

今後は、生徒・保護者への地域クラブの継続的な周知及び地域クラブ数を増やすことが課題になっている。



出典:加賀市統計書

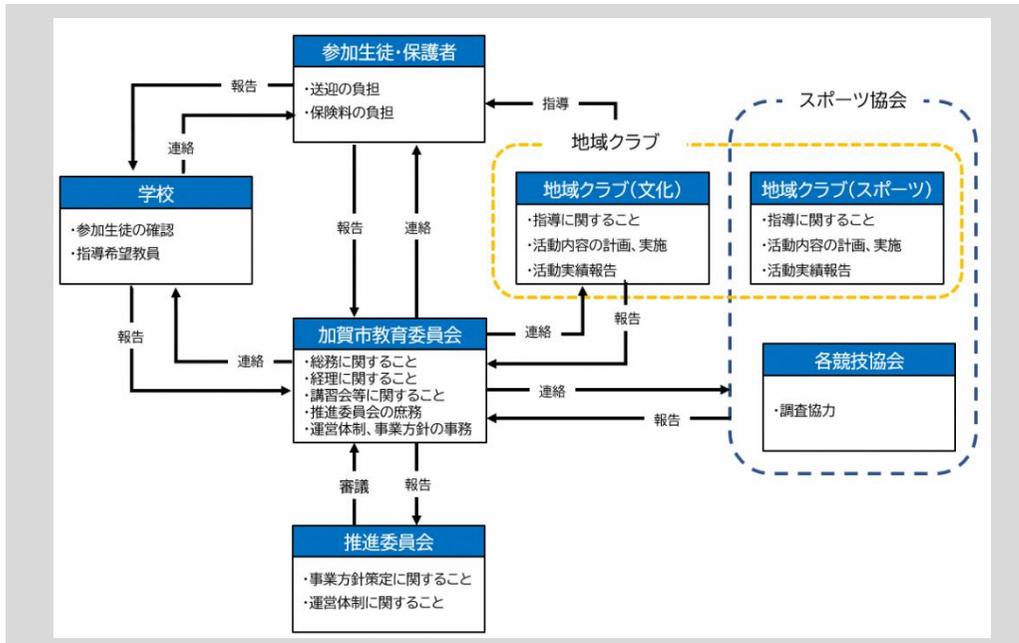
【課題】

加賀市の場合、児童生徒数の減少傾向が続く。毎年、生徒数が減少していけば、現行の部活動を維持することが難しくなる。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校指導課…学校部活動の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・スポーツ課…中学生のスポーツ活動の環境整備
- ・生涯学習課…中学生の文化活動の環境整備
- ・教育庶務課…会計処理

◎首長部局

- ・企画課…ふるさと納税の検討
- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

時期	実施事業
令和6年4月	地域クラブ説明体験会
令和6年4月	PTA総会で保護者に説明
令和6年4月	新入生歓迎会で生徒に説明
令和6年5月	第1回各クラブ担当者会議の開催
令和6年6月	地域クラブ指導者講習会
令和6年6月	地域クラブ保護者説明会実施
令和6年7月	第1回活動地域移行推進委員会
令和6年8月	休日の地域クラブ活動開始
令和6年10月	第2回各クラブ担当者会議の開催
令和6年11月	第2回活動地域移行推進委員会
令和6年12月	アンケート実施 対象：中学1・2年生徒・保護者
令和7年1月	第3回各クラブ担当者会議の開催
令和7年1月	新入生保護者説明会で新入生保護者に説明
令和7年1月	アンケート実施 対象：小学6年生 生徒・保護者
令和7年2月	小学6年生に説明会を実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	75人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 <small>※新規のものは末尾に（新）を付ける</small>	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
陸上競技クラブ	加賀市教育委員会	陸上競技	毎週土曜日	9時～12時	1年生29人 2年生36人	8月～3月	中央公園 陸上競技場	22人	-	0円	学校部活動
野球クラブ	加賀市教育委員会	野球	月1回土曜日	9時～12時	1年生20人 2年生19人	8月～3月	片山津 野球場	9人	-	0円	学校部活動
バレーボールクラブ	加賀市教育委員会	バレーボール	毎週土曜日	18時～ 21時	1年生38人 2年生24人	8月～3月	山中中学校 体育館	13人	-	0円	学校部活動
バスケットボールクラブ	加賀市教育委員会	バスケットボール	月1回土曜日	9時～12時	1年生12人 2年生16人	7月～3月	錦城中学校 体育館	3人	-	0円	学校部活動
ソフトテニスクラブ	加賀市教育委員会	ソフトテニス	月3回土曜日	9時～12時	1年生11人 2年生15人	8月～3月	中央公園 テニスコート	11人	-	0円	学校部活動
卓球クラブ	加賀市教育委員会	卓球	月3回土曜日	9時～12時	1年生13人 2年生7人	8月～3月	錦城中学校 講堂	11人	-	0円	学校部活動
ソフトボールクラブ	加賀市教育委員会	ソフトボール	毎週土曜日	9時～12時	1年生3人 2年生4人	8月～3月	東和中学校 グラウンド	6人	-	0円	学校部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- R6年4月20日 地域クラブ体験会を開催
- R6年12月 加賀市内中学校1・2年の生徒、保護者にアンケートを実施

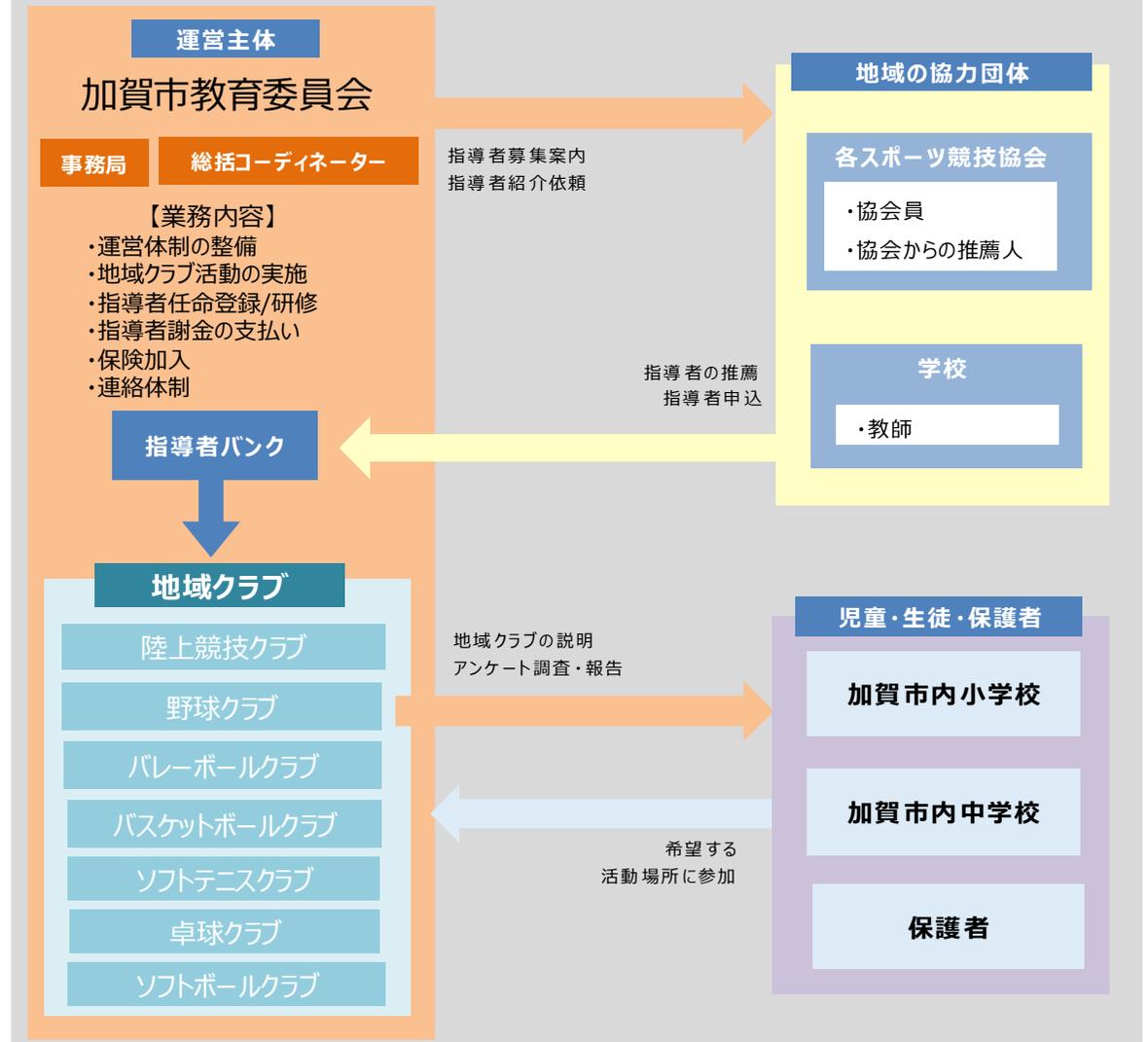
2.実証内容と成果

主な取組例

●加賀市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、ソフトボール
運営団体名	加賀市教育委員会
期間と日数	陸上競技・バレーボール・ソフトボール 8月～3月 毎週土曜日 ソフトテニス・卓球 8月～3月 月3回程度 野球・バスケットボール 8月～3月 月1回程度
指導者の主な属性	各スポーツ競技協会の会員、加賀市内の教職員
活動場所	中央公園陸上競技場 中央公園テニスコート 山中中学校体育館 錦城中学校体育館・講堂 片山津野球場 東和中学校グラウンド
主な移動手段	保護者の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ①統括コーディネーター1名を配置し、以下の役割を担う。
 - ・学校長、部活動顧問、各競技団体担当者との日常的な連絡・調整
 - ・事業計画策定、クラブ体制づくりへの主体的な関与
- ②以下の推進体制をとり、部活動地域移行の推進をはかる。
 - ・加賀市部活動推進委員会：学識経験者、スポーツ・文化芸術団体、各競技団体、市PTA連合会、中学校校長会等の代表者で構成
 - ・担当者会議：各クラブ運営担当者を集め、運営方針や今後のクラブ体制について協議
- ③広報活動
 - ・保護者向け説明：説明会開催、保護者連絡ツールによる情報発信
 - ・自動・生徒向け説明：学校訪問による説明、体験会の実施

取組の成果

- ①統括コーディネーターは、退職教員であり、市スポーツ協会とも関係が深い人材を配置することによって、スムーズに調整が取れた。
- ②加賀市部活動推進委員会を3回実施し、事業計画や現状把握、今後の方向性など議論してきた。結果として、地域スポーツ開設にむけて、指導者確保を含めてスムーズに行うことができた。また、担当者会議を定期的で開催することで地域クラブの現状の課題をお互いに確認できたり、積雪時の活動場所の確保など全てのクラブ運営に関わることを話し合うことができた。
- ③広報活動を保護者向け、生徒向けに繰り返し行うことで、混乱することなく8月に地域クラブを開設することができた。



出典：地域クラブ説明体験会実績報告書

コーディネーターの具体的な動きの実績

学校間と各競技団体の調整だけでなく、保護者、生徒向けに部活動改革を繰り返し説明してきた。また、市スポーツ協会内でも、その進捗状況を報告してきた。さらに推進委員会の開催責任者として、関係団体との連携を行ってきた。地域クラブ開催日には、積極的にクラブを訪問し、活動状況や地域クラブ運営の諸問題（活動場所/消耗品/用具等）の把握に努めてきた。

今後の課題と対応方針

今後のコーディネート業務を担う人材の発掘及び育成を行わなければ、地域クラブ活動が持続可能とならない可能性がある。

また、地域クラブ開設に向けて、繰り返しその広報活動を行い、混乱なくクラブ開設は行えたものの、今後も広報活動は、毎年丁寧に新入生及び新入生保護者を中心に行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○加賀市地域クラブ指導者募集
要項を策定し、各競技協会及び
加賀市内に勤務する教職員に呼
びかけた。

募集対象者

- ・加賀市各スポーツ競技協会会員
- ・同協会の推薦者
- ・加賀市内教職員
(地域クラブの指導に携わりたい方)

登録人数

75名
(男性57名女性18名)

登録者年齢構成

10代	1名
20代	12名
30代	11名
40代	18名
50代	14名
60代以上	19名

登録者属性

令和6年度地域クラブ指導者数一覧

地域クラブ	協会員	教職員	協会員・教職員	協会推薦者	合計	1回必要指導者数
陸上競技クラブ	17		5		22	7
野球クラブ	3	5		1	9	5
バレーボールクラブ	12		1		13	6
バスケットボールクラブ	1		2		3	3
ソフトテニスクラブ	10	1			11	5
卓球クラブ	10			1	11	3
ソフトボールクラブ	6				6	3
合計	59	6	8	2	75	32

取組の成果

- 指導者75名を確保した。
- R6年6月に指導者講習会を実施し、50名が参加した。また、欠席者向けに3回の補講を行い、全指導者の講習を修了した。
- 教職員については、中学校だけではなく、市内小学校の教職員にも募集し、全部で14名の教職員の参加があった。
- 約9割以上の指導者が協会員のため、より専門的な指導ができた。R6年12月に実施したアンケートでも、地域クラブに参加して良かった点、満足している点として、「より専門的な指導が受けられることができること」を参加者の59%があげている。



出典：地域クラブ指導者講習会実績書

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者講習会】

対象：加賀市地域クラブ指導者に申込した人

目的：各地域クラブの指導者として、適切に指導するための研修

内容：講義Ⅰ 部活動地域移行の経緯について

講師：統括コーディネーター

講義Ⅱ ハラスメント防止と生徒理解について

講師：学校指導課長

講義Ⅲ 学校部活動が果たしてきた役割と、これからの地域クラブに求められること

講師：石川県内大学人間科学部スポーツ学科 教授

工夫して点：・講義後に確認テストを実施し、全参加者が8割以上の合格点をとり、理解を深めた。

・欠席者には、曜日時間帯を変え、動画等を活用して3回の補講を行い、全申込者の講習を行うことができた。

指導者研修の参加実績

- | | |
|-----------------|--------------|
| ・開催日：6月7日（日）午前 | 参加人数：50人 |
| ・開催日：6月18日（火）夕方 | 参加人数：5人（補講） |
| ・開催日：6月23日（日）午後 | 参加人数：13人（補講） |
| ・開催日：6月29日（土）午後 | 参加人数：7人（補講） |

受講者の声

行政側からの説明で、加賀市の少子化の状況とこれからの部活動の維持することの困難性がわかり、子どもたちのスポーツ環境の確保のためには、地域クラブの必要性が理解できた。

実際に中学生を指導するにあたり、スポーツハラスメントに留意し、アンダーコントロールをしていく必要性を感じた。

講師からは、「学校部活動が果たしてきた役割とこれからの地域クラブに求められること」という演題で講演を聴かせていただいた。これまで部活動が担ってきた役割を歴史的背景を交えながら丁寧に話していただいた。また、今後地域スポーツクラブに求められる地域での役割についても少し理解できた。地域の子どものために、スポーツ環境が持続可能できるように、お手伝いしていきたいと思う。

今後の課題と対応方針

今回は、第1回指導者講習会ということでもあり、子どもたちのスポーツ環境確保のための地域クラブ開設の必要性を学んだ。さらに、スポーツハラスメント防止の重要性やこれまでの部活動の役割など地域クラブ活動として基本的な内容の研修であった。

今後は、クラブ活動の準備運動や整理運動の必要性だったり、競技毎の特性に応じた研修会が想定される。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ①学校と連携して進めていくため、部活動顧問会や中学校校長会で説明してきた。また、市内各中学校PTA総会においても本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施した。
- ②推進委員会事務局には、スポーツ協会事務員も入り、連携した。また、総括コーディネーターが加賀市スポーツ協会理事会にも、定期的に参加し説明を実施した。
- ③アンケート結果より、移動手段がない生徒の移動手段のため、企画課・教育庶務課と連携して、実証事業を検討した。

取組の成果

- ①部活動顧問会や中学校校長会に出席し、加賀市部活動改革プランの学校側の理解を進めてきた。また、市内中学校の生徒・保護者に地域クラブ開設に向け、繰り返し事前周知を行い、地域クラブ募集チラシを配布することで、混乱なく地域クラブを開設できた。
- ②現在、7競技種目の地域スポーツクラブが開設されているが、今後はその種目数を増やし、子どもたちの選択を増やすことを目指している。そのためには、加賀市スポーツ協会の協力が必要となる。スポーツ協会には、推進委員会の事務局の一員を担ってもらうなどして協力体制を築いている。また、総括コーディネーターも積極的にスポーツ協会の各種会議に参加し、発信して理解を深めてきた。
- ③R7年8月より、休日の部活動が完全移行するにあたり、部活動で使っていたスクールバスの活用を、教育庶務課と協議した。また、スクールバスで対応できないところは、企画課と乗合いタクシーの活用や、公共交通機関の活用などを協議した。結果、R7年8月よりスクールバス等を活用した、実証事業をR7年8月より実施予定となった。

新入生保護者説明会	全6中学校
新入生説明会	全17小学校
PTA総会	全6中学校

今後の課題と対応方針

子どもたちは、平日は学校部活動、休日は地域クラブとその活動を理解し、使い分ける必要がある。そのためには、学校側の理解が必要である。これまで、校長会や部活動顧問会等で繰り返し説明してきたが、まだまだ理解が足りず、兼職兼業届を出す教職員の割合が全国平均より少ない。また、加賀市スポーツ協会に所属する各スポーツ競技協会やジュニアの指導に携わる関係者との連携及び協力も必要である。「加賀市部活動改革プラン」を様々な場面で周知し、地域住民や加賀市民の方々に協力していただける体制づくりが今後求められる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実① 地域クラブ説明体験会を開催

取組事項

目的：地域クラブ開設に向け、子どもたちが興味ある競技に参加できるように体験会を開催した。また、複数競技を体験できるように、各競技同日開催とした。

チラシ：体験会チラシ

地域クラブ説明体験会

日時 2024年4月20日(土)
13:00から

場所 加賀市中央公園内体育施設
(開会式:加賀市スポーツセンター)

対象者 加賀市内中学校の1・2年生
※3年生は対象外

当日スケジュール

13:00～ 体験会の説明

13:15～ 移動 / 準備

実施競技	活動時間・場所(3回)		
	13:30～14:10	14:30～15:10	15:30～16:10
陸上競技	陸上競技場	陸上競技場	陸上競技場 <small>※希望者多い場合はのみ実施</small>
野球	×	スポーツセンター横自由広場 <small>(雨天時)スポーツセンターメインアリーナ内</small>	×
バレーボール	×	スポーツセンター メインアリーナ(雨天時片側)	×
バスケットボール	スポーツセンター メインアリーナ(雨天時片側)	×	×
ソフトテニス	×	中央公園テニスコート <small>※雨天時は中止</small>	中央公園テニスコート <small>(雨天時)スポーツセンターメインアリーナ内</small>
卓球	スポーツセンター サブアリーナ	スポーツセンター サブアリーナ	スポーツセンターサブアリーナ <small>※希望者多い場合はのみ実施</small>
ソフトボール (女子生徒のみ)	スポーツセンター横自由広場 <small>(雨天時)スポーツセンターメインアリーナ内</small>	×	×
STEAMクラブ	スポーツセンター会議室	スポーツセンター会議室	スポーツセンター会議室

※雨天時は場所が限られるため、バスケットボール、バレーボール、野球、ソフトボールは1回のみの体験会とします。
 なお、閉会式は行いませんので、体験が終わった方は各自で解散してください。

準備物 ソフトテニスラケット、野球グラブ、ソフトボールクラブ、卓球ラケット
※備品の貸出はありますが、数に限りがあります。
お持ちの方はご持参ください。

参加報告 体験会参加希望者は、右記QRコードから回答をお願いいたします。

活動の詳細

参加人数	116人	指導者数	40人
属性	加賀市内中学校 1・2年生		
具体的な内容	開会式：地域クラブの説明,体験会の説明 1コマ目：陸上競技,バスケットボール,卓球,ソフトボール 2コマ目：陸上競技,野球,ソフトテニス,卓球 3コマ目：陸上競技,ソフトテニス,卓球		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ● 3コマ制にし、複数の競技に参加できるようにした。 ● 会場を加賀市中央公園内体育施設に集約し、移動時間の短縮を図った。 ● 各スポーツ競技協会と連携し、情報を共有してスムーズな流れをつくった。 ● 各競技の用具等は、学校等連携して用意をした。 		
ソフトボール参加者の声	以前から、野球やソフトボールに興味があったが、体験する場所がなかったので、体験会に参加できて良かった。当日はソフトボールを手にとった時は緊張したが、先生や先輩が優しく教えてくれたので、徐々にコツをつかめるようになりました。またバットを振ってボールが飛んでいく瞬間の爽快感は格別で、思わず声に出してしまいました。また、キャッチボールをしながら仲間と会話を弾ませるのも楽しかったです。この体験会を通して、ソフトボールの魅力を存分に感じる事ができました。		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 3コマにすることによって、複数の競技に参加できることは良かった。 ● 3コマにすることによって、1コマの時間が短すぎて消化不良に感じた。 ● 会場を集約したが、当日雨天の場合は活動が限られるので難しいと思った ● 開催日が1日だったので、参加したくても参加できない生徒もいたと思う。 		
運営経費	・卓球トレーニングボール 20個 14,000円 ・ソフトテニスボール 40個 18,000円 ・学校等連携して用具等を準備したため、開催費用を抑えることができた。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実② 加賀市内中学校1・2年生徒・保護者にアンケート実施

取組の成果

R5年度行ったアンケート結果では、中学生保護者の回答率が低く、回答率を上げるために、以下の方法でアンケートを依頼した。

- ・アンケート依頼文の配布
- ・アンケート依頼文をコドモン配信
- ・保護者懇談会の待合室に、アンケートフォーム（QR）の掲示

R5年度回答率10% → R6年度回答率45%に上がった

アンケート依頼配布用 A4

アンケート依頼掲示用 A3

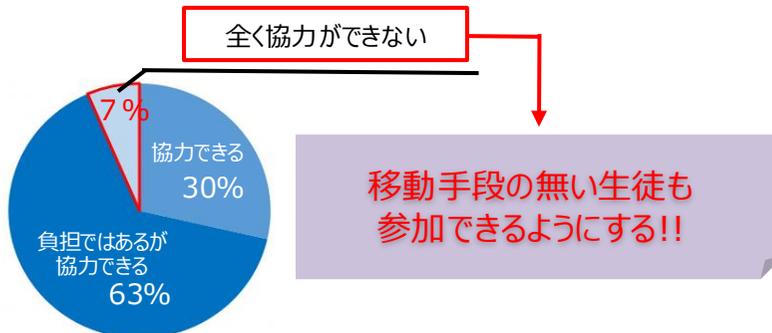


アンケート結果より

Q：週1回（土日のどちらか1日）、地域で地域クラブの活動を行うとしたら、お子さまの送迎に協力できますか。

A：中学生保護の93%の方は、送迎に協力できる。

一方で7%の保護者が、協力できない。



今後の課題と対応方針

R7年度は活動場所までの送迎は引き続き、保護者の皆様にご協力をお願いするが、アンケート結果を踏まえ、スクールバス等を活用した実証事業を行う予定。

2025年度 実証事業

スクールバス等を活用し、保護者の送迎が難しい家庭を支援する

- 【利用対象】 移動手段がない生徒（アンケート結果より7%の生徒）
- 【移動手段】 スクールバス等の活用
- 【送迎区間】 各中学校～地域クラブ会場（20～30分程度）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○市スポーツ施設は、年間通して大会等のスケジュールがあり、活動場所は学校施設が中心となる。そのためコーディネーターが、学校を訪問し調整した。また、積雪時は学校施設の体育館利用が重なるため、コーディネーターが校長会会議で説明し、各競技団体担当者と連携して学校等を訪問して、活動場所の確保につとめた。

取組の成果

○総括コーディネーターが、退職教員で、市スポーツ協会理事だったこともあり、学校や各スポーツ競技団体担当者との連携も密となり、活動場所の調整ができた。
 また、積雪時は市内中学校の体育館だけでは活動場所が足りず、市内高校の体育館の使用も視野にいれて、市内高校も訪問し、市内高校体育館の使用ができた。

出典:校長会説明資料抜粋

② 積雪時の地域クラブ活動場所について

地域クラブが充足し、4ヶ月あまりが経ちました。そこで、現状の課題等の確認のために、地域クラブ運営担当者（10月16日）を行いました。その際に、積雪時の部活動各季節が設定されることを受け、現状の練習場所を積雪時（雨天時含む）に向けて変更できるか話し合いがなされました。結果として、陸上競技が山代に変更を希望し、ソフトテニス、ソフトボールが、現状の練習場所からの変更しても構わないという返答をいただきました。

	陸上競技クラブ	野球クラブ	バレーボールクラブ	バスケットボールクラブ	ソフトテニスクラブ	卓球クラブ	ソフトボールクラブ
活動日	土曜日午前	土曜日午前	土曜日夕方	土曜日午前	土曜日午前	土曜日午前	土曜日午前
回数	月4回	月1回	月4回	月1回	月4回 (年度当初2回から変更)	月3回 (年度当初2回から変更)	月4回
積雪時、雨天時、積雪時の活動場所は適切か？	晴天時 陸上競技場 雨天時 錦城中体育館から山代中講堂へ変更したい 積雪時 同上	晴天時 片山津市営球場 雨天時 片山津中体育館 積雪時 片山津中体育館	山代中体育館 （2コート） 今後の参加人数によっては、さらにコート数を増やす必要がある。この場合、男女分かれた4コート（3コート）分の活動場所が必要となる。	錦城中体育館	晴天時 中央公園ソフトテニスコート 大会の予定等をあらかじめ確認して優先度を上げてほしい。 雨天時/積雪時 第1希望錦城中 第2希望東和中 第3希望山代中	錦城中学校講堂 卓球台が15台程度使える体育館が必要	東和中のままで良いが、変更は可能である。
協会からの要望	・山代中講堂では、陸上場内練習で使えるものがそろっている。 ・中長距離の練習に、近れる体育館千原アリーナが必要となる。				コート2面を立てることができるとは、ネットがあればどここの中学校でも可能。 第1土曜日/第3土曜日と第2土曜日/第4土曜日で活動場所が2カ所になってほしい。		ソフトボール競技を広く知ってもらうために東和中以外の学校施設での練習でも構わない。

今後の課題と対応方針

○今後、地域クラブを増やし、学校体育施設の利用が増えてくるため、施設利用の調整に係る業務を学校単位から一元化できるように検討を進める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年8月から地域スポーツクラブ（7クラブ）が活動を開始した。生徒・保護者向けの説明会や体験会、保護者連絡ツールを活用した情報発信など、本事業の周知活動を行ったが、参加率は全体の3割程度に留まった。

指導者の資質向上に向けては、講習会の開催や指導者との定期的な運営会議を実施した。

事業推進においては、学校、スポーツ団体、地域団体、保護者など関係者との連携が不可欠であり、統括コーディネーターが中心となり、密な連絡調整、会議運営、広報資料作成などを通じて連携体制の構築に努めた。

児童生徒およびその保護者を対象にアンケートを実施し、事業成果の確認と課題の整理を行い、今後の方向性に活かした。

●成果の評価

項目	評価	理由
部活の移行度	◎	8競技のうち7競技移行完了
関係団体との連携	◎	総括コーディネーター設置により円滑に連携できた。
指導者の質・量	○	クラブ運営できる指導者数は確保できたが、育成の面で課題が残る。
内容の充実	△	参加者の満足度は高いが参加生徒が3割に留まった。
学校施設の活用	○	学校と連携し活動場所の調整をすることができた。

●今後に向けて

- ・令和6年度に活動を開始した7クラブ（陸上、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、ソフトボール）に加え、新たに競技種目拡大を目指す。
- ・令和6年度は一部の部活動で休日の活動を行ってきたが、令和7年8月から休日の部活動を原則停止にする。
- ・会場までの移動手段として、実証的にスクールバスを利用した移動手段を検討する。
- ・指導者研修会の内容を講義形式からワークショップ形式に変更し、指導者の質の向上を目指す。

2.実証内容と成果③

広報資料

令和5年度の部活動移行推進委員会、スポーツ競技協会とのヒアリング、部活動顧問と競技協会との話し合いを経て、令和6年度8月の地域クラブ開設にむけて、「加賀市部活動改革プラン」を製作し、ホームページ上にアップし、広く市民に改革を周知した。

リーフレットについて、新入生保護者会及び小学校6年生説明会並びにPTA総会で配布し、令和6年度夏以降の地域クラブ開設及びその目的を周知してきた。さらに、6月に行われた地域クラブ保護者説明会においても配布し、広く保護者に周知してきた。

また、「加賀市部活動改革プラン」のオンライン動画を作成し、同じくホームページにアップした。

令和7年1月には、「加賀市部活動改革プラン ver.2」を製作し、同様に広く市民に周知した。

「加賀市部活動改革プラン」リーフレット

FAQ よくあるご質問

- Q 来年度までに、地域クラブに参加できるようになるの？
- Q 大大会には学校と地域クラブ、どっちで参加することになるの？
- Q 地域クラブは必ず入らないといけないの？
- Q 文化祭はどうなるの？
- Q 送迎や利用料はどうなるの？

保護者・子どもたちのアンケート結果

小学生の75%、中学生の60%は他校の子どもたちと活動したい

小学生	36.3%	37.4%	9.3%	4.4%	12.6%
中学生	25.1%	35.2%	16.0%	11.1%	12.6%

加賀市 学校部活動改革プラン

加賀市の 学校部活動 が変わっていきます

部活動でも「BE THE PLAYER」～自分で考え、動き、生み出せる環境を作る～

キーワード #選択できる #多様な人と関わる #専門性の追求 #ALL加賀

「学校部活動は地域へ移行する」という国全体の流れの中、子どもや保護者からのアンケート結果も踏まえ、加賀市では、部活動について子どもが自ら多様な形を「選択できる」環境を作っています。その中で、他校の生徒など「多様な人と関わる」ことができ、そして「専門性の追求」もできるよう、「地域クラブ」の開設を順次進めています。そして、学校部活動の割合を段階的に減らしていき、「ALL加賀」で子どもたちの運動や文化活動を支えていきます。

加賀市が目指す方向性

将来的には、学校部活動はなくなり、平日・休日ともに、地域クラブのみでの活動を目指します

STEP 01 学校部活動は平日のみ、休日は地域クラブで活動

STEP 02 2025年度～ 休日に開設する地域クラブの対象種目や文化部活動にも拡大していきます

STEP 03 平日・休日どちらも、地域クラブで活動できる種目を増やします

2024年度夏頃 開設予定の地域クラブ

- バスケットクラブ
- 野球クラブ
- 陸上クラブ
- ソフトボールクラブ
- バレーボールクラブ
- 卓球クラブ
- ソフトテニスクラブ
- STEAMクラブ

例えこんなイメージです

- 野球: 競技力を高めたい!
- テニス: 違うスポーツもしたいな!
- 陸上: スポーツ以外にも楽しみたい!

出典:加賀市教育委員会事務局作成

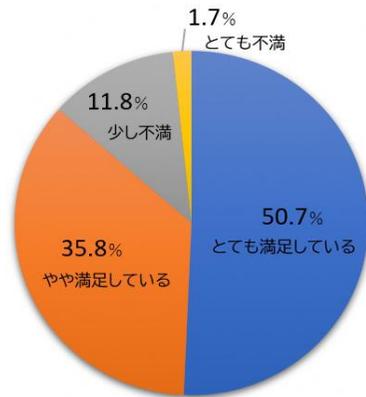
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

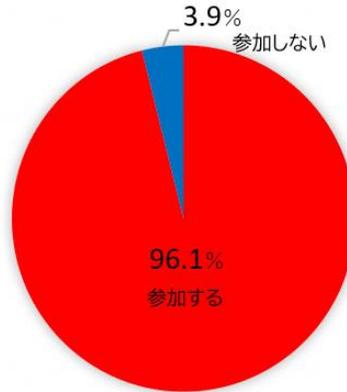
●アンケート結果（R6年12月実施）

※地域クラブ参加者246人中、229人回答

Q.所属している地域クラブの活動に満足していますか？



Q.次年度も継続して、地域クラブに参加しますか？



●参加者の声

中学1年 女子生徒

知らない他の中学校の人たちと練習するのは、最初は緊張していたけど、練習していくうちにしゃべるようになって、楽しくなりました。

中学1年 男子生徒

学校の部活動ではあまり見本を見せてくれないけど、地域クラブでは、現役の競技者の先生が手本を見せてくれるので、すごく上手になれると思います。

中学2年 保護者

市内の中学生が集まるということもあり、部活動とは雰囲気にも娘も最初はとても緊張している様子でした。指導して下さる方もバレーに精通している方ばかりで初めての地域クラブの練習も「初日からハードだった〜！」と帰ってきました。その後も毎回帰りの車に乗るなり楽しそうに話してくれるようになりました。地域クラブを通して、他の学校の子ども、学年問わず仲良くなることができて、親としては嬉しいという気持ちが大きいです。

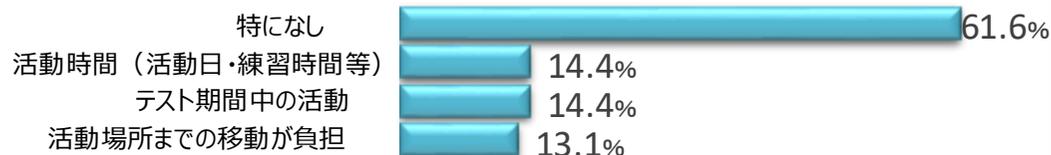
指導者

地域の競技力向上になればとお手伝いしています。学校間に人数のバラツキはあるものの、市内の中学生が集まることで孤立する生徒がいらないか心配でしたが、男女ともに仲良く活動しています。

Q.地域クラブに参加して、良いところ、満足しているところを教えてください（複数回答可）



Q.地域クラブに参加して、悪いところや、不満なところを教えてください（複数回答可）？



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【R6年5月 新入生歓迎会にて生徒に地域クラブの説明】



【R6年6月 指導者講習会にて講演会】



【地域クラブ活動風景①】



【地域クラブ活動風景②】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ競技協会
市長部局、市教委、総括コーディネーター

経過

令和5年度より推進委員会を設置し、教育委員会を運営団体とする新たな地域クラブ体制を令和6年に構築する推進計画を策定した。令和5年度12月までに各スポーツ競技協会から地域クラブを開設するかの最終回答を得た。また、中学校各競技顧問とも話し合いを重ね、地域クラブ開設を県大会終了後とし、当初計画よりも遅らせることになった。その後、「加賀市部活動改革プラン」を作成し、新入生保護者説明会や小学6年生向けの説明会を実施するなどして、令和6年度8月地域クラブ開設を周知した。

開設後は、運営競技団体とコーディネーター、行政等で組織する運営者担当者会を設置し、クラブ活動の現状と課題について話しあった。

実施内容

令和6年度8月より、7競技8団体による休日の地域クラブ活動が始まっている。市内中学1・2年生の3割にあたる252名が現在地域クラブに登録し、活動している。

実施にあたって生じた課題

市内スポーツ施設については、県外含めた関係諸団体が使用しており、中学生の優先的な使用が難しい状況にある。現在、土日に学校部活動を行うことは認められており、学校部活動と学校施設の地域クラブの使用が重ならないように学校への理解を求めてきたが、なかなか理解を示さない学校関係者が一部いた。令和7年度8月以降は、休日の学校部活動が行われなくなるため、その混乱は収束すると思われる。

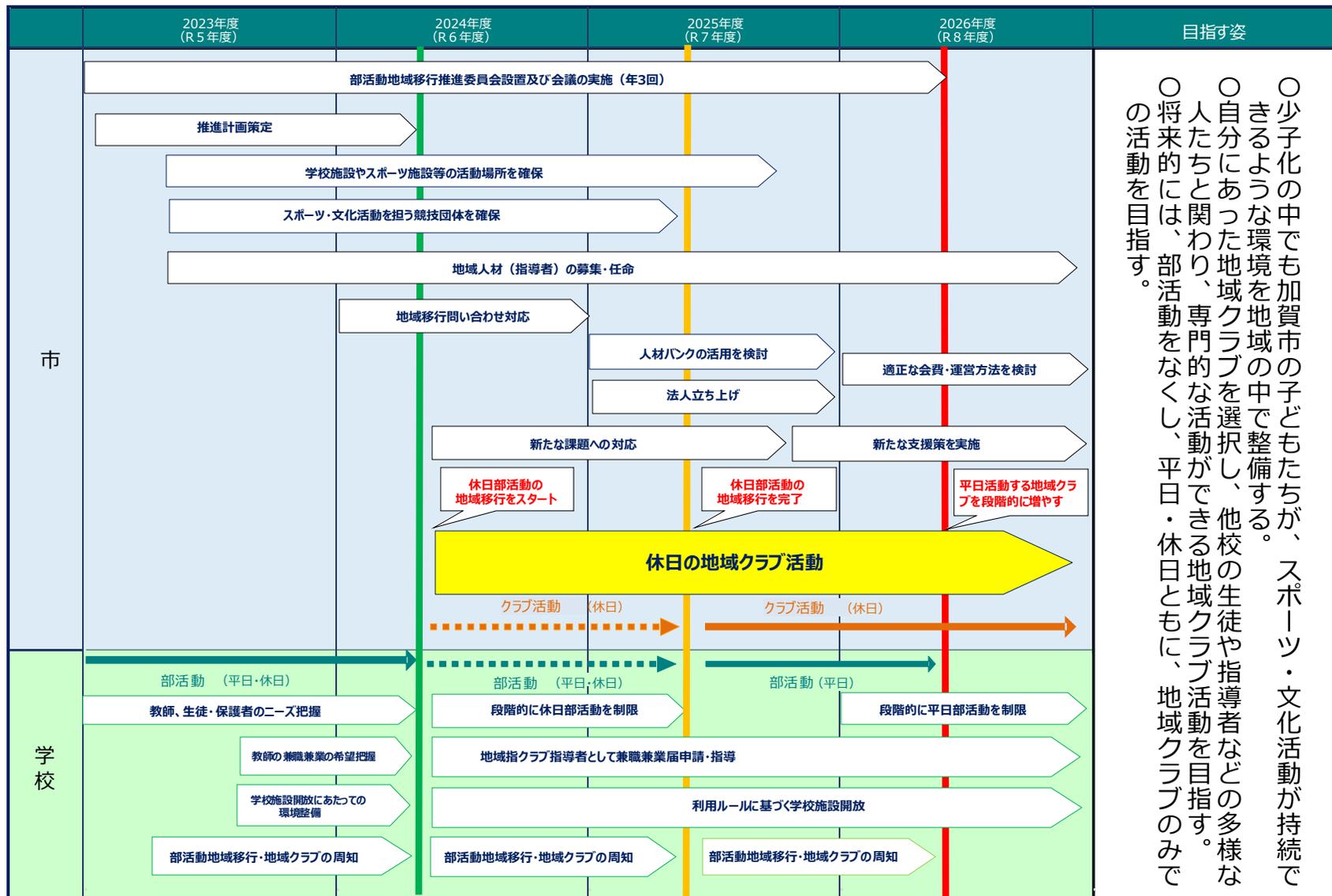
保護者、子どもたちは、学校、地域クラブのどちらで大会に参加するかということに関心があるが、地域クラブによってその対応がわかるため、その周知に難しさが残った。また、地域クラブによっては、クラブ員数に対して指導者の不足が課題としてあり、指導者が集まらず急遽開催中止となったクラブもあった。

今後の展開

令和7年8月からは、休日の部活動を行わず、平日部活動、休日地域クラブ活動を実施する予定である。来年度からは中学1年～3年生までの活動となるため、500名程度の参加が見込まれている。また、希望しても地域クラブに移動できない生徒を対象に、スクールバス等の運用を想定している。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



○ 少子化の中でも加賀市の子どもたちが、スポーツ・文化活動が持続できるような環境を地域の中で整備する。
 ○ 自分にあつた地域クラブを選択し、他校の生徒や指導者などの多様な人たちと関わり、専門的な活動ができる地域クラブ活動を目指す。
 ○ 将来的には、部活動をなくし、平日・休日ともに、地域クラブのみでの活動を目指す。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

石川県かほく市

自治体名：石川県かほく市

担当課名：学校教育課

電話番号：076-283-7136

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	64.44 km ²
人口	36,234人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	905人
部活動数	22部活 (移行前数)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

部活動別地域移行実施の状況

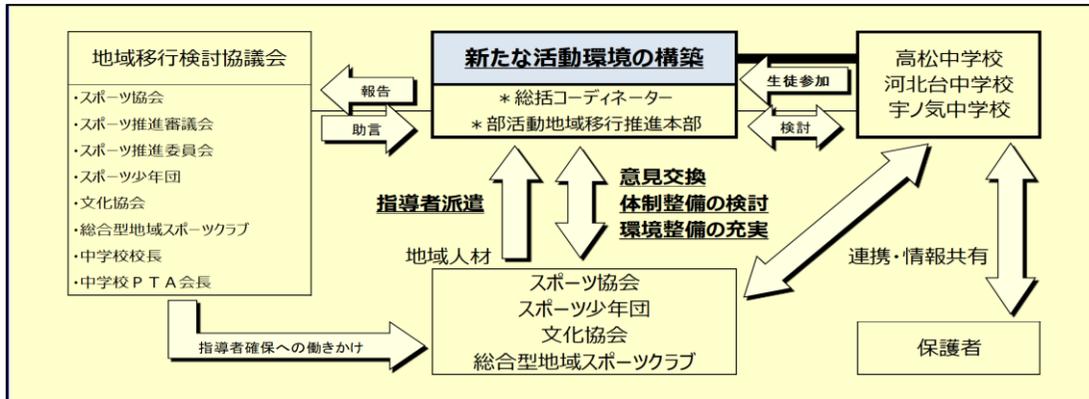
部活動名	性別	学校名	指導者派遣団体	地域移行の状況			備考
				R6	R7 予定	R8 見込	
バスケットボール部	男子	河北台中・宇ノ氣中	市バスケットボール協会 (兼職兼業教員)	休日(7月~)	平日・休日	平日・休日	
バスケットボール部	女子	宇ノ氣中					
ソフトテニス部	女子	高松中・河北台中	市ソフトテニス協会 (兼職兼業教員)	休日(5月~)	休日	平日・休日	
卓球部	男子	高松中・河北台中	市卓球協会	休日(7月~)	休日	休日	
	女子	河北台中					
軟式野球部		高松中・河北台中 ・宇ノ氣中	兼職兼業教員	3校合同試行中 (7月~)	平日・休日	平日・休日	
バドミントン部	男子	高松中	市バドミントン協会	試行(10月~)	平日・休日	平日・休日	
	女子	河北台中		部活動	部活動	移行の詳細未定	
	男子	宇ノ氣中		部活動	部活動	移行の詳細未定	
	女子	宇ノ氣中		部活動	部活動	移行の詳細未定	
柔道部	男子	河北台中	市柔道協会 (兼職兼業教員)	部活動	休日	休日	
バレーボール部	女子	河北台中	市バレーボール協会	部活動	休日	平日・休日	
	女子	宇ノ氣中		部活動	部活動	休日	
	男子	宇ノ氣中		部活動	部活動	休日	
陸上部	男子	高松中・河北台中 ・宇ノ氣中		部活動	部活動	移行の詳細未定	
剣道部	男子	高松中・宇ノ氣中		部活動	部活動	休日	
	女子	宇ノ氣中		部活動	部活動	休日	
ソフトボール部	女子	高松中		部活動	部活動	-	R7夏季大会後廃部
吹奏楽部		高松中・河北台中 ・宇ノ氣中		部活動	部活動	移行の詳細未定	

競技団体との協議を継続しているが、圧倒的な人材資源不足の現状から移行が難航している。令和7年度は、受益者負担の考え方により、指導者謝礼費および消耗品費のため保護者負担を求めるが、従前の部費よりも高額な負担は求めにくく、実証事業で配分される額でなお不足する分を市単独公費で補う予定としている。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



◎教育委員会

令和7年度末までの改革推進期間における地域クラブ活動の運営主体は、かほく市教育委員会とする。

年間の事業スケジュール

月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の地域クラブ活動の周知(案内文書の配付) 令和7年度からの地域移行を目指す競技種目の検討 部活動地域移行推進本部会議
5月	<ul style="list-style-type: none"> ソフトテニス部の休日地域移行を開始 卓球部合同保護者説明会(高中・河中) 総合型地域SC(クラブパレット)との協議(傷害保険の取扱い等)
6月	<ul style="list-style-type: none"> 卓球部の休日地域移行を開始 野球部の地域移行に向けた中学校顧問との意見交換会 バスケットボール部の地域移行に向けた中学校長との意見交換会
7月	<ul style="list-style-type: none"> 市バスケットボール協会との協議及び意見交換会 バスケットボール部の休日地域移行を開始 内灘町部活動地域移行検討協議会との意見交換会
8月	<ul style="list-style-type: none"> 野球部の3中学校合同部活動の開始(宇中・河中・高中) ソフトボール部の地域移行に向けた学校顧問との意見交換会 バドミントン部の地域移行に向けた市バドミントン協会及び中学校との協議
9月	<ul style="list-style-type: none"> 市バレーボール協会との意見交換会 市ソフトボール協会との地域移行に向けた協議 野球部合同部活動への生徒輸送支援
10月	<ul style="list-style-type: none"> バドミントン部(高松中)の地域移行に向けた実証事業 野球部顧問会との意見交換会 バレーボールの地域移行に向けた中学校長会との協議
11月	<ul style="list-style-type: none"> 市バドミントン協会との協議会(地域移行に向けた諸準備) 部活動地域移行に関する中学校長会との意見交換会 市ソフトテニス協会との協議(令和7年度からの地域移行について)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 市バスケットボール協会との意見交換会(令和7年度からの完全移行について) 市広報誌の原稿作成(地域移行が始まる部活動種目について) 市バドミントン協会(七塚支部)との意見交換会
1月	<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行に関する野球部合同保護者説明会の開催 部活動の地域移行に関する保護者説明会(中学校別に開催) 県中体連への地域クラブ登録申請等
2月	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブの会員募集案内の作成及び配布 地域クラブガイドラインの策定(規約含む) 中学校長会との協議及び意見交換会(会員募集等)
3月	<ul style="list-style-type: none"> 市バドミントン協会との協議(高松中の完全移行に向けて) 市バレーボール協会との協議(令和7年度からの地域移行について) クラブ入会申込のとりまとめ等

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（6部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	16人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
かほくバスケットボールクラブ	かほくバスケットボール協会	バスケットボール	平日 月・水 休日 土	19:30 ～ 21:30 16:30 ～ 18:30	1年 22人 2年 16人 3年 5人	R 6. 7 ～	学校体育館	9人	2人	無 指導者謝礼 は公費負担	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
かほくソフトテニスクラブ	かほくソフトテニス協会	ソフトテニス	休日 土	8:30 ～ 12:00	1年 14人 2年 8人 3年 5人	R 6. 5 ～	学校敷地 内テニス コート	5人	2人	無 指導者謝礼 は公費負担	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
かほく卓球クラブ	かほく卓球協会	卓球	休日 土	8:30 ～ 12:00	1年 9人 2年 29人 3年 人	R 6. 7 ～	学校体育館	6人	2人	無 指導者謝礼 は公費負担	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

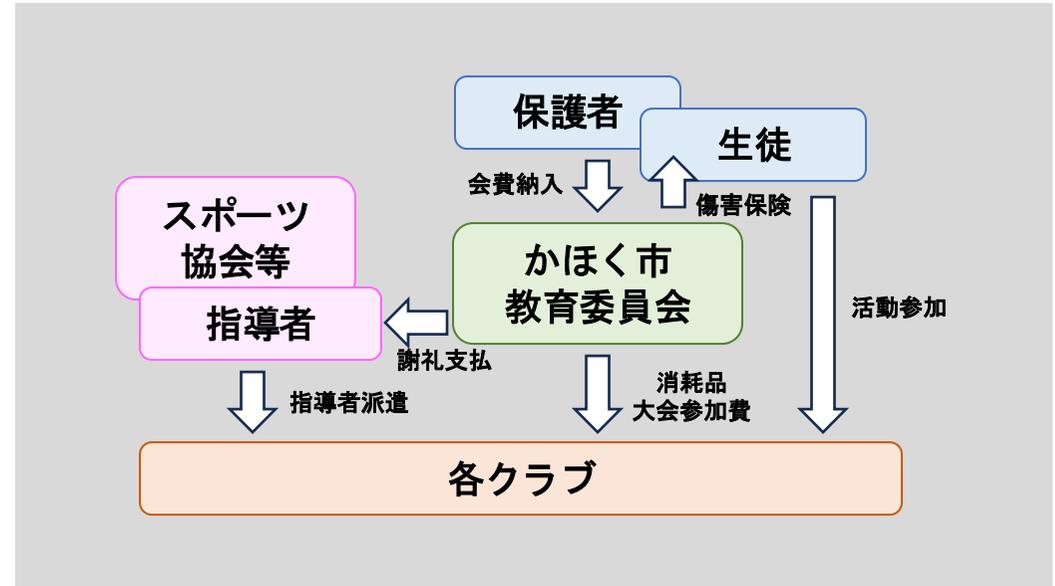
2.実証内容と成果

主な取組例

●クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール ソフトテニス 卓球
運営団体名	かほくバスケットボールクラブ かほくソフトテニスクラブ かほく卓球クラブ
期間と日数	バスケット：7月1日～3月31日 ソフトテニス：5月1日～3月31日 卓球：7月1日～3月31日
指導者の主な属性	協会員
活動場所	学校施設内（部活動に同じ）
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	R6は無し 指導者謝礼は公費負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 各クラブ責任者 1名
役割：クラブチームの総括的な管理を行い、市教育委員会とのパイプ役を担う
- 各クラブ指導者 複数名（クラブごとの状況に応じて配置）
役割：各クラブで指導を担う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総括コーディネーターが中心となり、競技団体と中学校との連絡調整を実施し、土台作りに取り組んだ。また、部活動地域移行推進本部との協議を実施し、現状報告や今後の取組・方向性を共有した。更に、7月から合同部活動として活動している軟式野球部における今後の展開等について保護者説明会を実施した。

取組の成果

これまでの競技団体等との協議が実を結び、いくつかの競技において休日の地域移行が完了し、また、令和7年度から平日・休日ともに移行するクラブも誕生した。

各競技団体と協議を重ねることにより、多くの競技団体に対して「地域子ども達は、学校を含めた地域で育てる」という意識をもってもらうことができた。

競技団体との協議では、地域移行後のクラブの在り方について、市が決めた方法による運営を押し付けるのではなく、競技団体側にクラブの在り方を検討してもらうように促した。これにより、競技ごとに適したクラブ運営体制を模索してもらうような意識を醸成することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・ 地域移行の全体方針作成・進捗管理
- ・ 地域クラブ活動ガイドライン策定
- ・ 競技団体との連絡調整
- ・ 学校との連絡調整

今後の課題と対応方針

一部の運動部、文化部において、指導者たちの中で地域移行に関する意見の相違や温度差があり、地域移行に関する協議が停滞している。今後も継続的に協議を進め、指導者の方々へ協力を求める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

競技団体や文化芸術団体との意見交換において、まずは、休日の地域移行における指導者の確保（量の確保）に努めてほしいことを依頼した。

将来的に、平日の地域移行も視野に入れた指導体制を図れるよう競技団体と連携強化を図った。

今後の取組事項

今後、クラブ指導者となっただけの方々に対して、石川県の伴走支援による指導者研修やスポーツ少年団指導者研修に参加することを促すことで、指導者の質の向上を図る。

競技団体や文化芸術団体を通じての指導者の確保を継続するとともに、部活動指導員へクラブ指導者となっただけのように個別に働きかけることで、指導者の量の確保を進める。また、地域クラブ指導の意欲がある教員に対しては、兼職兼業の制度について周知し、指導者となっただけよう働きかける。

取組の成果

関係者（競技団体）との連絡調整時に指導者の確保（量の確保）が必要不可欠であることを意見交換会等で説明し競技団体で指導者確保に取り組んでほしい旨を意識付けることができた。

競技団体の理解のもと、必要な指導者数を確保できた競技から、順次地域移行を行っている。その他、複数の教員の中から、来年度以降、兼職兼業で指導者となっただけけると内諾をいただいている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

石川県教育委員会、石川県中学校体育連盟、河北郡市中学校体育連盟、かほく市教育課程研究部会及びNPO法人クラブパレットとの意見交換を実施し連携強化を図った。NPO法人クラブパレットとの協議では、部活動には無い種目の開設・運営について協議した。

取組の成果

日本中学校体育連盟各競技種目によっては、地域移行を行う際に必要な資格の取得や大会運営協力体制等の違いが様々であることが明確になった。

また、NPO法人との意見交換では、部活動には無い新種目の立ち上げに前向きな体制を得ることができた。

R 6実績

- ・自重・体幹トレーニング
- ・ケガ予防講座
- ・リズムトレーニング
- ・トレーニングヨガ
- ・コーディネーショントレーニング
- ・メンタルトレーニング
- ・高強度インターバルトレーニング
- ・エアロビクス
- ・ボクササイズ

今後の課題と対応方針

NPO法人に依頼した、部活動には無い新種目の立ち上げの具体案、時期が未定であり、引き続き働きかけを進めていく。

現在は、クラブ運営を教育委員会直営で行っているが、将来的には、スポーツコミッション等による運営へと移行することを模索する。今後、スポーツコミッションとの連携体制の構築を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支を軸に、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

移行時に1度だけのユニホーム更新補助の規約を創設

■ランニングコストの分析

各クラブごとに、指導者の人数や指導実績から、指導者謝礼分の受益者負担となる保護者負担のバランスを分析

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

R7予算要求額

歳入		歳出	
保護者負担金	7,785千円	平日練習移動	660千円 ※スクールバス活用
国補助金	5,000千円	報償費	10,752千円 ※指導者謝金@1600円/時
市一般財源	3,711千円	需用費	2,413千円 ※ボール等
		役務費	820千円 ※保険料、郵送料、口振手数料
		補助金	1,851千円 ※ユニフォーム、低所得者配慮
歳入計	16,496千円	歳出計	16,496千円

収支バランス

R7負担区分の振分表

保護者負担分		市負担分	
指導者謝礼	5,192千円	指導者謝礼	5,560千円
需用費	2,413千円	練習送迎バス経費	660千円
保険料	180千円	郵便料	96千円
		口座振込手数料	544千円
		ユニフォーム補助	1,270千円
		参加者支援補助	581千円
合計①	7,785千円	合計②	8,711千円

①+②= 16,496千円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

保護者負担（受益者負担）の低減、活動場所の確保および生徒の安全確保を行うため、部活動のときに使用していた学校体育施設、社会体育施設をそのまま地域クラブの活動場所とし、施設使用料の減免の調整を行った。

取組の成果

生徒は、もともと部活動で使用していた学校体育施設、社会体育施設をそのまま活用することで慣れ親しんだ施設で活動することができた。

地域クラブが学校体育施設、社会体育施設を使用する際は、施設使用料を減免することにより、保護者負担を低減することができた（令和6年度は、会費徴収を行っていないため、実質的な効果は令和7年度から現れる見込み）。

今後の課題と対応方針

今後、未移行の部活動が移行する際も、移行済みのクラブと同様、部活動のときと同じ学校体育施設、社会体育施設を使用できるよう、活動場所の確保と施設使用料の減免の調整を行なっていく。

移行する部活動によっては、指導者の都合等で練習時間が夕方から夜へ変更となるケースも出てくる見込みであり、練習場所の確保が難航する恐れがある。既存施設利用団体と利用時間等の調整を行うほか、既存施設利用団体と合同での練習（同一競技について幅広い年代での合同練習等）ができないかなど、あらゆる可能性を検討しながらクラブの活動場所の確保を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 改革推進期間後も展開を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域クラブ活動への移行に向け、各競技協会と協議を行った。
- 部活動の地域移行に関して、広く市民に理解を求めため、市広報等で進捗状況を紹介した。

取組の成果

- すでに合同部活動を行っていた部活動について、学校、競技団体、保護者等との協議を速急に進め、平日も含めた地域クラブとして活動を行う目途が立った。その他競技においても、試行的に地域移行を行うなどの検証を進め、令和7年度から3つの平日・休日ともに移行する地域クラブが誕生する見込みとなった。
- 地域移行の進捗状況についての広報を行うことで、市民の間で部活動地域移行の認知度が高まった。

指導者の属性や配置の工夫

- ・一部の地域クラブで指導者が過多となり、同一時間内の指導を制限するなど、配置の工夫を行った。
- ・部活動顧問に指導の意向がある場合は、兼職兼業で地域クラブの指導にもあたってもらうように促した。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

- ・平日と休日の指導者が異なる場合において、指導の一貫性を確保するため、生徒の指導に関する情報共有を定期的に行うこととしている。

今後の課題と対応方針

一部の地域クラブで指導者人数が過多となる傾向があり、保護者負担および公費負担増に繋がる可能性があるため、適切な指導者人数となるよう競技協会と協議を行っていく。

広報資料

令和7年度 かほく市地域クラブ活動 会員募集の案内

◆かほく市地域クラブとは？ 「部活動」を「地域クラブ」へ移行していきます！
 中学校の部活動は、これまで学校教育の一環として取り組まれてきました。しかし、部員数の減少が続き、活動が縮小化したり廃部になったりなど、生徒たちの多様な活動を継続することが難しくなってきました。そこで、学校部活動の維持が困難となる前に、各団体との連携・協力により、中学生のスポーツ・文化活動の場を確保するため、新たな地域クラブ活動の取組を進めています。

◆地域移行の背景と国の方針

部活動の地域移行の背景

- ①少子化が進捗し、学校部活動をこれまでと同じ体制で維持することが困難 → 1校でチームが組めない・廃部の増加
- ②教員の専門性や意思に関わらず、教員が顧問を務めることの限界 → 時間外勤務の増加・教育課程外・教員の負担
- ③「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」ことを目指す → スポーツ・文化活動を通じた地域の活性化

部活動の地域移行の方針

改革推進期間(令和5~7年度) → 改革実行期間(前期)(令和8~10年度) → 改革実行期間(後期)(令和11~13年度)

国の方針: 少なくとも休日の部活動を地域移行させる(地域移行-地域展開) → 休日の地域展開に着手し、平日の地域展開に向けていよいよ地方公共団体はた取組を進める(確実-着手する)

かほく市: 完全地域移行-3種競技(休日のみ移行)-4種競技(部活動の継続)-3種競技(平日の移行を推進させる)

◆新年度から始まる「地域クラブ」の紹介

1. 「完全地域移行」のクラブ[3クラブ]

(県中体連…石川県中学校体育連盟の略称)

かほくバスケットボールクラブ	かほく軟式野球クラブ	高松ジュニアバドミントンクラブ
①かほく市バスケットボール協会員 ②平日(月・水) 19:30~21:30 休日(土) 13:00~16:00 *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③かほく市総合体育館(月曜・水曜)宇ノ気体育館(土曜) ④各種大会へは、地域クラブチームとして参加(県中体連へ地域クラブ登録) ⑤毎月5,000円 別途年会費5,000円(選手登録料・協会費等)	①地域指導者(兼業教員) ②平日(月・火・金) 16:30~18:30 休日(土) 8:30~11:30 *スクールバス運行(平日・長期休業中) *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③宇ノ気中学校 野球グラウンド ④各種大会へは、地域クラブチームとして参加(県中体連へ地域クラブ登録) ⑤毎月5,000円	①かほく市バドミントン協会(高松支部の協会員) ②平日(月・水・木) 19:15~21:15 休日 8:30~11:30 *地域クラブと学校部活動が併存します。ただし、学校部活動の新規募集はありません。 ③高松中学校体育館 ④各種大会へは、地域クラブチームとして参加(県中体連へ地域クラブ登録) ⑤毎月5,000円

2. 「休日のみ地域移行」のクラブ[2クラブ]

かほくソフトテニスクラブ	かほく卓球クラブ
①かほく市ソフトテニス協会員 ②休日(土) 8:30~11:30 *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③高松中テニスコート(高松地区)七塚テニスコート(七塚地区) ④各種大会へは、部活動として各中学校チームで参加(県中体連へ学校登録) ⑤毎月2,000円	①かほく市卓球協会員 ②休日(土) 8:30~11:30 *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③高松中学校卓球場(高松地区)かほく市総合体育館(七塚地区) ④各種大会へは、部活動として各中学校チームで参加(県中体連へ学校登録) ⑤毎月2,000円

各クラブの募集案内

- ①地域クラブの指導者
- ②活動日・時間等
- ③活動場所
- ④大会への参加
- ⑤活動会費(月会費)

【各クラブのお問合せ先】
 かほく市教育委員会
 学校教育課
 TEL 076-283-7136

3. 新たに「休日の地域移行」に取り組むクラブ[2クラブ]

かほくバレーボールクラブ(仮称)	かほく柔道クラブ
<p><調整中></p> ①かほく市バレーボール協会員 ②休日(土) 9:00~12:00 *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③〇〇〇体育館 ④各種大会へは、部活動として中学校チームで参加(県中体連へ学校登録) ⑤毎月 円	①かほく市柔道協会員、地域指導者兼業教員 ②休日(土) 8:30~11:30 *大会や練習試合等で土曜・日曜とも活動することがあります。 ③かほく市総合体育館(2F 武道場) ④各種大会へは、学校又はクラブとして参加(県中体連へ地域クラブ登録) ⑤毎月2,000円

地域移行Q&A

Q 将来的に学校の部活動はなくなるのですか？

A 既存の部活動種目の全てを地域移行(地域展開)させることを目指しています。まずは、休日の部活動を移行から始め、令和8年度には休日の部活動を廃止し、地域クラブ活動へ移行させる予定です。その後、平日の移行に取り組み、将来的には学校の部活動を廃止する計画です。

地域移行Q&A

Q 部活動や地域クラブには必ず参加しなければいけないのですか？

A 部活動や地域クラブへの参加は自由(任意)です。休日も部活動と同じ種目に取り組み、競技力の向上を目指すことができます。また、休日は家庭で学習や読書に取り組むなど、自分たちが主体的に選択することとなります。

※「剣道」、「陸上」、「バドミントン(宇ノ気中)」及び「文化部関係」の地域移行については、各団体において協議を継続中です。

◆クラブへの入会申込について

※令和7年3月14日(金)までに中学校へ提出(新生入生へは入学後に改めて案内)



☞ 地域クラブへの入会申込は、随時受け付けます。(提出先：学校教育課)

◆会費の徴収方法について(別紙参照)

・会費は、民間の会費徴収システムを利用し、保護者のクレジット決済又は口座振替の方法で徴収します。

◆傷害保険について

※傷害保険には必ず加入していただきます。(年間保険料 800円は会費に含む)

	学校部活動	地域クラブ活動
適用の傷害保険	日本スポーツ振興センター(学校管理下)	スポーツ安全保険(学校管理下外)
医療機関窓口での対応	学校管理下での事故やケガ等については、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度が優先となりますので、「かほく市子ども医療費受給資格者証」を使用せず、いったん医療機関窓口で医療費をご負担ください。	「かほく市子ども医療費受給資格者証」をご使用ください。(現物給付) *子ども医療費助成制度の問合せ先 保険医療課 TEL 076-283-7123
保険金等の支給	医療費総額の3割に加え医療費総額の1割が見舞金として支給されます。	医療費実費でなく、定額保険金が支給されます。(自宅と活動場所の経路往復中の傷害等も補償)
その他参考事項	市子ども医療費助成制度との併用不可	市子ども医療費助成制度との併用可能
傷害保険の詳細について	独立行政法人日本スポーツ振興センターホームページ [災害共済給付 Web]	公益財団法人スポーツ安全協会 ホームページ [スポーツ安全保険]

*かほく市ホームページ「部活動の地域移行について」
 (入会申込書の様式データ等)
<https://www.city.kahoku.lg.jp/002/210/218/>

お問合せ先

かほく市教育委員会 学校教育課 TEL 076-283-7136
 スポーツ文化課 TEL 076-283-7135



スポーツ庁ホームページをご覧ください。
<https://www.mext.go.jp/sports/>

広報資料

令和6年度から

中学校部活動の「地域移行」が始まります

問い合わせ先

学校教育課
☎ 283 - 7136

中学校の休日の部活動は、令和7年度末までの改革推進期間中に、全ての種目を「地域クラブ活動」へ移行させることを目指しています。

✔ 地域移行・合同部活動の実施

《 バスケットボール・ソフトテニス 》

令和6年度から地域移行を実施し、各競技の市協会が技術指導にあたります。平日（放課後）の部活動は継続します。

《 軟式野球 》

既に宇ノ気中と河北台中による合同部活動を開始しており、令和7年度からは、高松中を含めた「かほく市野球クラブ（仮称）」の設立を目指しています。

《 その他種目 》

各競技団体等と協議を継続しており、令和6年度の途中から地域移行（合同部活動を含む）に取り組むことも予測されます。

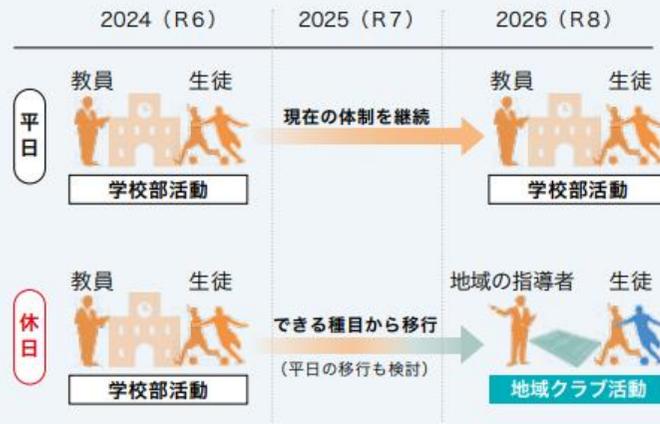
✔ 休日の地域移行と学校部活動

- ・令和8年度には、休日の地域移行を完全実施予定です。（休日の学校部活動〔教員の休日指導〕は廃止）
- ・中体連大会の一定期間前の休日に、学校部活動として強化練習試合等を行うこともあります。
- ・活動への参加は任意です。休日も部活動と同じ種目に参加する、または違う種目に参加するなど、生徒が主体的に選択することとなります。

✔ 令和6年度「休日の地域クラブ活動・合同部活動」の概要

	バスケットボール	ソフトテニス	軟式野球
開始時期	令和6年5月～	令和6年5月～	令和6年4月～
活動形態	地域の「クラブ活動」	地域の「クラブ活動」	学校の「合同部活動」
管理責任	地域クラブ (学校管理下外の地域活動)	地域クラブ (学校管理下外の地域活動)	中学校 (学校管理下の学校活動)
指導者	市バスケットボール協会	市ソフトテニス協会	中学校教員
対象校	宇ノ気中・河北台中	高松中・河北台中	宇ノ気中・河北台中 (※令和7年度より高松中も参加)
活動場所	市総合体育館・河北台中	高松中学校・七塚テニスコート	宇ノ気中グラウンドほか
活動日	月曜・水曜・土曜	原則土曜（3時間程度）	平日・土曜日（原則）
移動手段	保護者送迎、徒歩など	保護者送迎、徒歩など	保護者送迎、徒歩など
大会参加	学校単位で参加	学校単位で参加	合同チームとして参加

広報資料



国の方針により令和5年度から始まった「中学校部活動の地域移行推進期間」が、令和7年度に最終年を迎えます。これまで各競技団体との意見交換を重ね、少しずつですが学校部活動を地域クラブへ移行する取り組みが始まっています。

引き続き、各競技団体などの協力を得ながら、円滑な地域移行を推進していきます。

中学校部活動の「地域移行」に向けて 学校での部活動から地域の活動へ

Q & A

Q 将来的には部活動は、なくなるの？

既存部活動種目の全てを地域移行（地域展開）させることを目指しています。まずは、休日の部活動の移行から始め、令和8年度には休日の部活動を廃止し、地域クラブ活動へ移行させる予定です。

Q 地域クラブには必ず

参加しなければならないの？

参加は任意です。休日も部活動と同じ種目に取り組み競技力向上を目指したり、家庭で学習や読書に取り組みむなど、子どもたちが主体的に選択することとなります。

Q 地域クラブ会費などはあるの？

受益者負担としてクラブ会費が必要となります。週の実施回数に応じて、クラブ会費（指導者報酬・消耗品費等）を設定します。

【問い合わせ】

学校教育課 ☎ 076 (283) 7136
 スポーツ文化課 ☎ 076 (283) 7135

参考資料（活動写真）

参考資料 ◆◆◆ バスケットボール部（活動写真） ◆◆◆



【スタッフ紹介・練習会主旨説明】



【コーディネーショントレーニング風景】



【ハーフコートでの1対1練習】



【1対1練習風景】



【5対5ゲーム説明】



【5対5ゲーム風景】

参考資料（活動写真）



【5対5ゲームシチュエーション指導①】



【5対5ゲームシチュエーション指導②】



【5対5ゲームシチュエーション指導③】



【5対5ゲームシチュエーション指導④】



【クールダウン後の講評】



【指導者反省会・課題検証】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- ステークホルダー
競技A 部活動顧問・保護者
- 経過
 - ・市内中学校で合同部活動実施
(肯定的な意見)
→練習の幅が広がり生徒たちにとって良い刺激となっている
 - 大人数での切磋琢磨が良い雰囲気を生む
 - 課題よりプラス面が多い
 - ・部活動顧問との意見交換実施
→地域クラブへ移行後も兼職兼業で指導に携わりたい
→(市民の教員) 異動したとしても、市民としてクラブの指導に携わっていきたい
 - ・保護者説明会開催
- 実施にあたって生じた課題と対応
 - ・練習場所への生徒の移動方法の確保
→生徒の移動は、スクールバスを使用することで対応

令和7年度から平日も含めて、地域クラブとして活動開始

- ステークホルダー
競技B 競技団体・学校長
- 経過
 - ・競技団体・学校長・教育委員会で意見交換実施
 - ・次年度からの地域移行を見据え、試行的に地域移行実施
- 実施にあたって生じた課題と対応
 - ・既存部活動の移行に当たって、クラブでの活動を望む生徒と部活動での活動を望む生徒に分かれる(競技志向か否か)
→地域クラブ設立後も部活動は併存。新規部員の募集は行わず、現時点の部員が引退後に部活動を廃止
 - ・消耗品に係る経費が大きく、補助が必要
→消耗品に係る費用は、クラブ会費及び市費から支出することとし、保護者から追加の負担は求めない
 - ・大会参加に係る移動方法の確保
→生徒の移動は、スクールバス使用、保護者の車乗り合わせで対応

令和7年度から平日も含めて、地域クラブとして活動開始
上記費用負担の考え方などは、他クラブ運営にも適用

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	競技種目	学校名	地域クラブの指導者	学校部活動の地域移行計画			参考事項
				R6年度(2024)	R7年度(2025)	R8年度(2026)	
1	バスケットボール	河北台中(男子) 宇ノ気中(男女)	市バスケットボール協会	休日のみ移行	地域クラブ開始(平日・休日) * 部活動を地域クラブへ完全移行(部活動廃止)	地域クラブ活動(平日・休日)	部活動は廃止(R6年度末)
2	軟式野球	高松中 河北台中 宇ノ気中	教員(兼職兼業)	合同部活動	地域クラブ開始(平日・休日) * 部活動を地域クラブへ完全移行(部活動廃止)	地域クラブ活動(平日・休日)	部活動は廃止(R6年度末)
3	バドミントン	高松中	市バドミントン協会	学校部活動(地域移行試行)	地域クラブ開始(平日・休日)	地域クラブ活動(平日・休日)	部活動は廃止(R8年度中)
		河北台中	未定	部活動	部活動の継続 * R8まで学校部活動継続(新入部員の募集停止)	部活動の継続 * 夏季中体連大会終了後、部活動を廃止	
		宇ノ気中	未定	部活動	部活動の継続	移行の詳細未定	平日の部活動は継続(R8)
							平日の部活動は継続(R8)

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

4	ソフトテニス	高松中	市ソフトテニス協会	休日のみ移行	休日のみ移行	休日のみ移行	平日の部活動は継続
		河北台中					
5	卓球	高松中(男子)	市卓球協会	休日のみ移行	休日のみ移行	休日のみ移行	平日の部活動は継続
		河北台中	市卓球協会	休日のみ移行	休日のみ移行	休日のみ移行	
6	ソフトボール	高松中	—	部活動	部活動の継続 * 新入部員の募集停止 (中体連大会後、廃部)	—	部活動は廃止 (R7年度中)
7	バレーボール	宇ノ気中(男子)	市バレーボール協会	部活動	休日のみ移行	休日のみ移行	平日の部活動は継続(R7～)
		宇ノ気中(女子)	市バレーボール協会	部活動	休日のみ移行	休日のみ移行	
		河北台中(女子)	市バレーボール協会	部活動	休日のみ移行	休日のみ移行	

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

8	柔道	河北台中 (男子)	市柔道協会 兼業教員	部活動	地域クラブ開始 (平日・休日) * 部活動を地域クラブへ完全移行(部活動廃止)	地域クラブ活動 (平日・休日)	部活動は廃止 (R6年度末)
9	剣道	高松中 (男子)	市剣道協会	部活動	部活動の継続	休日のみ移行 (詳細未定)	平日の部活動は 継続(R8~)
		宇ノ気中	市剣道協会	部活動	部活動の継続		
10	陸上競技	高松中	未定	部活動	部活動の継続	移行の詳細未定	平日の部活動は 継続
		河北台中					
		宇ノ気中					

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

石川県野々市市

自治体名：石川県野々市市

担当課名：教育総務課 学校教育係

電話番号：076-227-6162

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	13.56 km ²
人口	54,574 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	1,566 人
部活動数	38 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は2校の中学校を設置しているが、両校ともに生徒数は750名を超えている。また人口増に伴い、生徒数も増加の一途を辿っていることから、約16の部活動を設置している両中学校では、統合や整理等のダウンサイジングや、複数顧問制を敷くことによる教員の負担軽減につながりにくい現状がある。加えて、うち1校の男子バスケットボール部については、過去2回の全国中学校体育大会優勝の実績を誇り、令和4年度も準優勝に輝くなど、地域と学校をつなぐコンテンツの一つとして、部活動に対する地域や保護者の期待も未だ根強い。

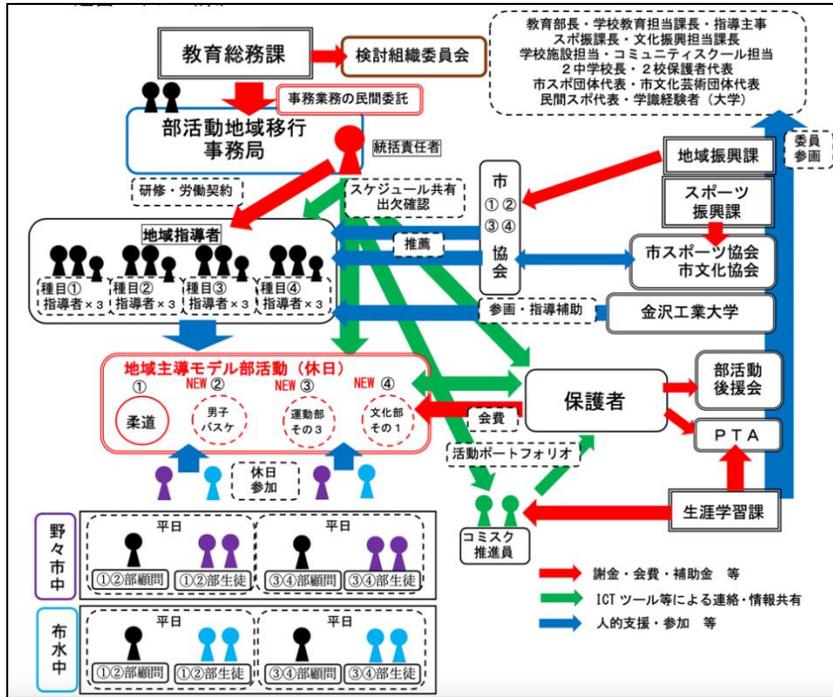
計画推進期間となる2年目、そして3年目に向けた事業拡充に向けて、対象となるモデル部活動の増加を実現するため

には、運営事務局の機能強化と地域指導者の増員とそのサポート体制の構築を確実に図っていく必要がある。年度ごとに適切かつ具体的なアセスメントとアジャイルを繰り返しながら、より機動的な対応を可能とする環境整備の具現化を図り続けることで、推進期間内に全ての市協会・団体が、今後の連携や改革に向けた一歩を、自信をもって踏み出すことが可能となると考える。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・検討組織委員会の運営、事務局への指導助言、会計事務補助（教育総務課）
- ・市スポーツ協会との連携（スポーツ振興課）
- ・コミュニティ・スクール推進員との連携（生涯学習課）

◎首長部局

- ・市文化協会との連携（地域振興課）

年間の事業スケジュール

令和6年4月	事務業務委託契約 ※R5実証モデル部活動（柔道） は契約締結後に活動開始
令和6年5月	検討組織委員会① R6関係者Webアンケート（①生徒・②教員・③市スポーツ・文化団体関係者・④保護者） ※男子バスケットボールは地域指導者の研修受講・契約締結後に地域主導の部活動開始
令和6年6月	関係団体ヒアリング（教員・市スポーツ団体・大学）
令和6年7月	検討組織委員会②
令和6年9月	新規R6実証モデル部活動の開始
令和6年11月	検討組織委員会③
令和6年12月	「野々市市 部活動における持続可能な体制づくり研修会」開催
令和7年2月	R6実証モデル部活動関係者Webアンケート実施
令和7年3月	検討組織委員会④

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	6人（地域指導者+大学生）	全体の運営スタッフ数	8人

②各クラブに関すること

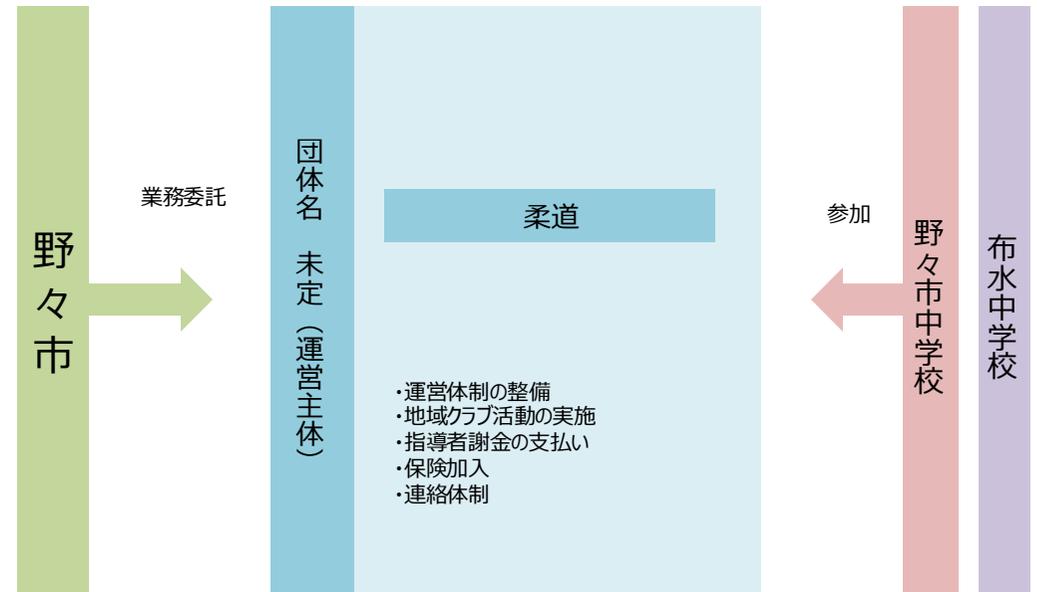
クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
未定	野々市市教育委員会 (一部民間委託)	柔道	月3～4回	9:30 ～ 12:00	2年：8人 1年：5人	1月11日 ～ 2月15日	金沢工業大学柔道場	3人	8人 (内、兼務5人)	月会費 1,000円	部活動として参加

主な取組例

●「未定」活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	未定
期間と日数	柔道：1月11日～2月15日 月3回程度
指導者の主な属性	教師の兼職兼業、大学教員
活動場所	市内大学、公的施設
主な移動手段	自転車、保護者による送迎、徒歩で移動可能な場所を活動場所として設定
1人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：2,000円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 主任指導者 1名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

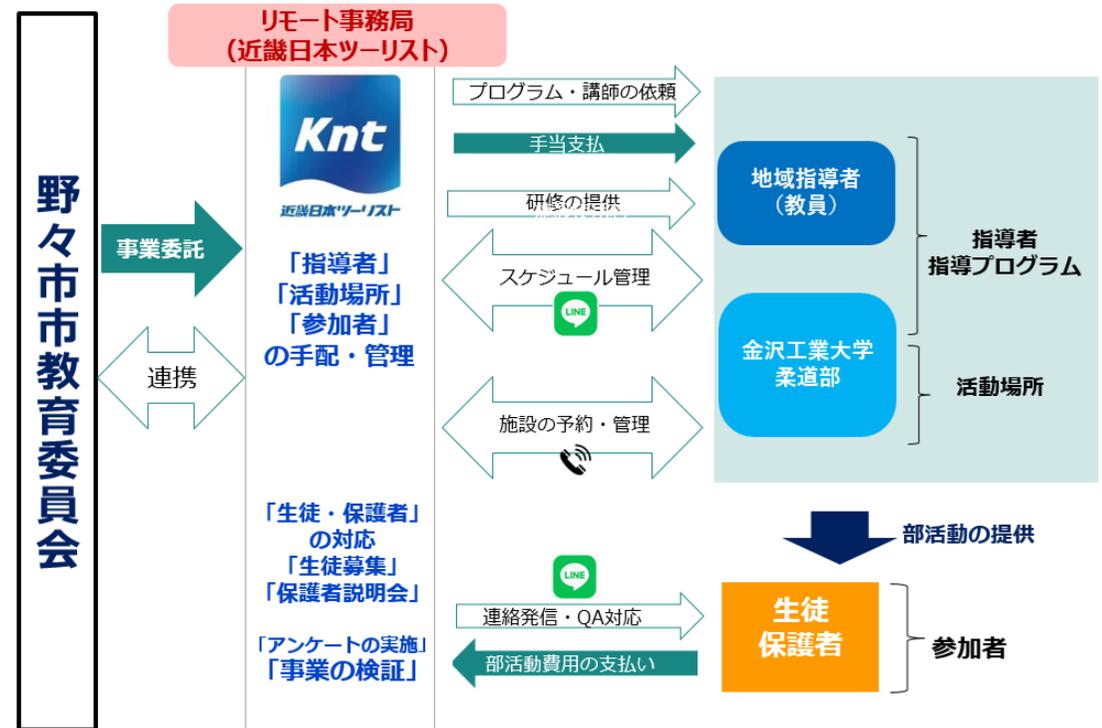
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○休日の部活動の管理運営：
多くのスポーツクラブ等が課題として、抱えている事務局機能を第三者が一元的に請負う仕組みを考案・実践し、「リモート事務局」を近畿日本ツーリスト（株）に委託し、その効果を検証した。

○現行クラブ等が行う事務局業務（コーディネーター）を近畿日本ツーリスト（株）へ委託。

保護者への連絡調整、月会費の徴収と指導者の派遣、会場の確保まで事務局に求められる全ての業務を「リモート事務局」として遂行した。本年度は、当該業務委託で実施し、将来的に保護者負担や協賛金等で運用できる仕組みづくりを行った。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター（リモート事務局）】

- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施
- ・参加者への部費回収業務
- ・保護者説明会の開催についてもオンラインにて実施
- ・指導者への給与払いにおけるスキームの管理

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組の成果

○リモート事務局の活用により、地域指導者（教員）の業務軽減につながり、「実証事業だけでなく、年間を通して実施できるようにしてほしい」と声が上がった。

○地域クラブに参加した保護者からもリモート事務局の活用については概ね良好な意見を得ることができた。

○アプリを通じた部費の回収業務においては、アプリの登録＋クレジットカードの登録をもっとシンプルにできるようにお願いしたい。との声があがり、課題が残る。

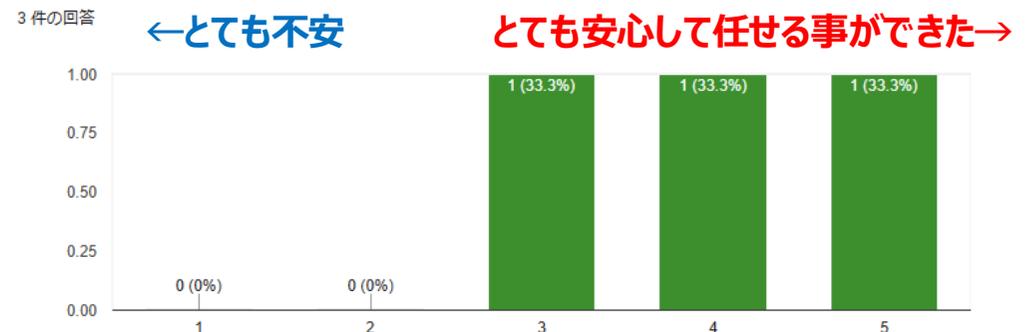
○地域クラブ運営（指導者・参加者の管理）を実証の中で教育委員会として本来行う調整業務民間企業に任せたことで、担当にとっての業務軽減にも繋がった。

今後地域クラブを増やしていく上でなくてはならない手段と考える。

今後の課題と対応方針

地域クラブの運営を、受け皿となるクラブに全て任せる事はクラブにとっての負担となるので、今年度実証事業で行った座組をより拡大していきたい。ただ、部費回収アプリや事務局の質についてはまだまだ課題があるので、より精度の高いサービスを民間事業者には期待したい。

KNT部活動運営事務局についての感想を教えてください（地域指導者）



KNT部活動運営事務局についての感想を教えてください（参加保護者）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○2校の部活動を合同で実施する形態を基本とした

○本市が面積13.56平方キロメートルのコンパクトシティであること、本市が設置している中学校が2校であること、その2校ともが大規模校であり生徒数が非常に多いことなどの特徴を効果的に活用するために、2校の部活動を合同で実施する形態を基本としている。移動に時間があまりかからないことや、徒歩や自転車での移動も現実的であるため、学校以外の場所での活動となっても、他市町と比較すると容易である。また合同で活動することにより、活動場所・指導者数に余裕や選択肢が生まれるほか、2中学校の生徒間の交流もできるため、これまでの部活動では得られなかった経験が可能な場となる

各自治体の役割

- 野々市市教育委員会
- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・関係機関&学校との連絡、調整
- ・理解促進に向けての広報
- ・諸謝金等の事務処理

移動手段

- 保護者の送迎協力

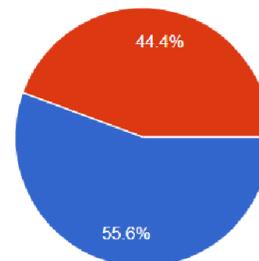
事務局運営の方法

- 事務局運営に関わる業務を「リモート事務局」として民間に委託
- 保護者への連絡調整、月会費の徴収と指導者の派遣、会場の確保、指導者の管理&謝金の支払い業務を行った

取組の成果

○参加者（保護者）から2校合同での地域クラブの実施について「他校の生徒と一緒に大学生などから教わることができ、良い刺激になり、知識、技術の向上ができ良かったと思います。良い機会を作って頂きありがとうございました。」との声をいただいた。

来年度以降も「野々市市地域柔道クラブ」に参加させたいですか（保護者）



- 是非参加させたい
- 参加費が今年度並みであれば参加させたい
- どちらかというとなんか参加させたくない
- 参加させたくない

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○地域柔道部の指導者には金沢工業大学柔道部の大学生に協力いただき、部活動運営を行った。

○令和5年度に参加した生徒のアンケート回答からは、「手本となる大人・大学生との出会い」を上位に挙げる生徒が多かった。ロールモデルとなる大人との直接的な関わりを持つことが、モチベーションや活動の質を高めていたことがうかがえることから、他競技における大学生との交流機会の拡充については、対象となるモデル部活動が決定した段階で、大学側のニーズや実施可否も含めた調整を速やかに図った。

活動の詳細

参加人数	13人	指導者数	地域指導者3人（教員） 金沢工業大学 大学生 3人
属性	大学生の指導活用		
具体的な内容	金沢工業大学の大学生に指導協力をお願いし、地域指導者と共に地域柔道部に参加する中学生へ向け指導を行った。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生などから教わることができ良い刺激になり知識、技術の向上ができ良かったと思います。 ● とても分かりやすく沢山のことが身に付きました 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域移行には地域と金沢工大の協力が必要（指導者、金沢工大以外の場所の確保などを全て金沢工大に依存では今後につながらない。） 		

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○休日の部活動の管理運営：

多くのスポーツクラブ等が課題として、抱えている事務局機能を第三者が一元的に請負う仕組みを考案・実践し、「リモート事務局」を近畿日本ツーリスト（株）に委託し、その効果を検証した。

○現行クラブ等が行う事務局業務（コーディネーター）を近畿日本ツーリスト（株）へ委託。

保護者への連絡調整、月会費の徴収と指導者の派遣、会場の確保まで事務局に求められる全ての業務を「リモート事務局」として遂行した。本年度は、当該業務委託で実施し、将来的に保護者負担や協賛金等で運用できる仕組みづくりを行った。

○2校の部活動を合同で実施する形態を基本とし、金沢工業大学の大学生に指導の協力をお願いした。

●成果の評価

リモート事務局の活用については、地域指導者・参加者共に概ね「安心して任せること事ができた」と意見をもらうことができた。

また、地域指導者（教員）の業務軽減につながり、「実証事業だけでなく、年間を通して実施できるようにしてほしい」と声が上がったことは大きな成果であった。

大学生を活用した指導についても保護者・参加生徒からも良い回答を多く得ることができたので、引き続き来年度以降も継続をしていきたい。

事務局にて行ったアプリを通じた部費の回収業務については、キャッシュレスで部費を回収する便利さがある反面、登録をする上での手間に加え利用者にとって使いにくいサービスであったので、改良をしたサービスを事業社には求めたい。

ただ、将来的に保護者負担を求めた場合の現金回収は現実的でないので、今年度の取組は多いに参考となった。

●今後に向けて

リモート事務局については、今後地域クラブを拡大していく上で指導者への業務軽減に繋がることと参加者からも「安心して任せることができた」との声が多かったので、地域移行を進める上で機能するサービスだとわかった。

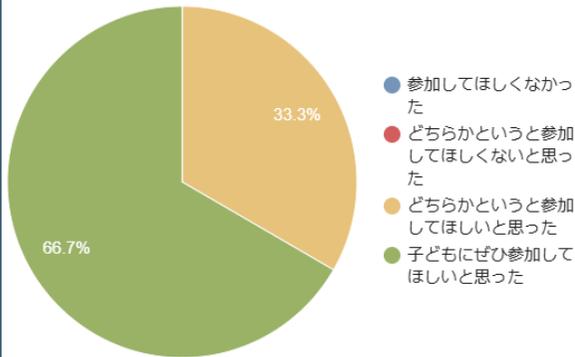
ただ、部費の回収システムなど委託事業社に改善をしてもらわなくてはならないサービスが本実証を通してみえてきたのも事実だ。

今年度行った地域柔道部の参加者と地域指導者（教員）は元々地域移行にある程度理解がある方々だったが、他の種目については地域移行の理解を保護者や教員に丁寧に説明することが大事なので進めていきたい。

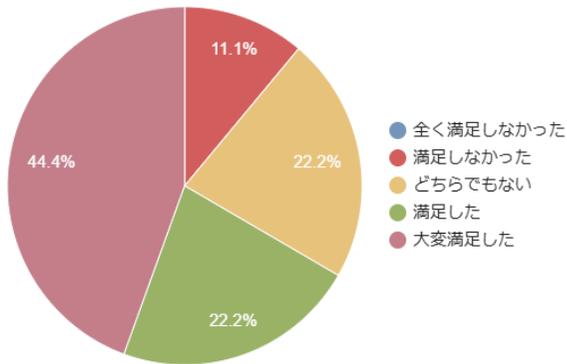
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

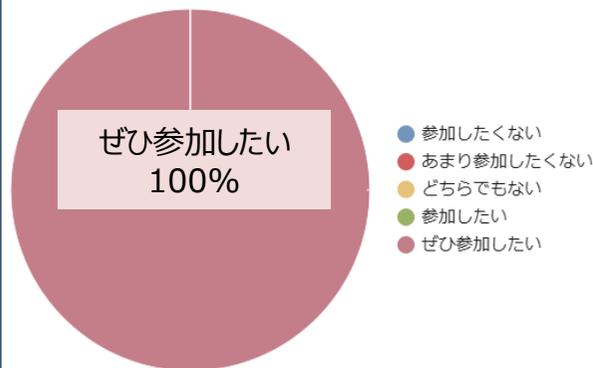
Q.【保護者】「野々市市地域柔道クラブ」のお知らせを聞いた時のお気持ちは？



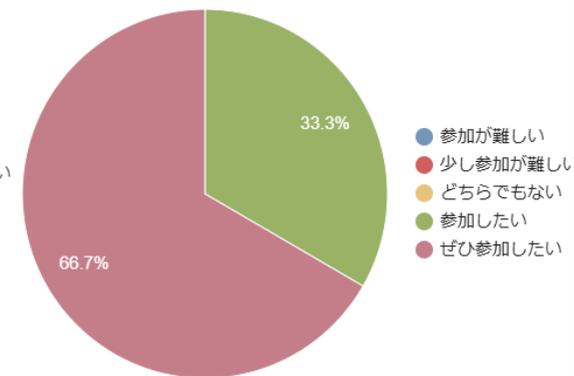
Q.【参加生徒】「野々市市地域柔道クラブ」に参加した満足度は？



Q.【指導者】指導者の協力依頼を聞いた時のお気持ちは？



Q.【指導者】来年度以降も指導者として協力したいと思いますか？



●参加者の声

中学1年生

とても分かりやすく、沢山のことが身につきました。

中学1年生

色々なことを教えていただきありがとうございます。

指導者

是非とも年間通して実施できるようにしてほしいです。

指導者

指導者と場所の確保が課題だと感じた。
地域での協力が必要。

広報資料

保護者向け説明会資料

野々市市部活動地域移行実証事業 合唱部

保護者説明会資料



実施スケジュール、実施会場

指導スケジュール

日付	時間	集合時間	場所
1月11日(土)	9:00~12:00	8:55	野々の杜の公民館2階 音楽スタジオ
1月18日(土)	9:00~12:00	8:55	にぎわいの里の公民館2階 ホール
2月1日(土)	9:00~12:00	8:55	布衣中学校 音楽室
2月8日(土)	9:00~12:00	8:55	野々の杜の公民館2階 音楽スタジオ
2月15日(土)	9:00~12:00	8:55	野々の杜の公民館2階 音楽スタジオ

指導テーマ

- ・オンとオフの切り替えしよう
- ・技術はもちろん、メンタルも成長しよう
- ・厳しさを乗り越えた先の楽しさを求めよう
- ・勝利至上主義ではなく、個人としてもチームとしてもレベルアップ

■LINE登録のお願い

下記にあるQRコード「オンライン部活申込フォーム」よりお申込みください。
この度、保護者様と事務局との連絡に関わるよりどりについてはLINEを活用していきます。
お手数をおかけいたしますが、下記QRコードより「友達追加」をお願い致します。

近畿日本ツーリスト部活動運営サポート

★ 11:53

Toshiyuki,M様

ご登録ありがとうございます。
初めにこちらのアンケートにご協力ください。
[https://myfm.jp/7hnTE
X?mode=example (プレビュー)]



※必ずアンケートフォームに「部活動（野々市 柔道部）」の選択、及び「氏名（生徒の名前）」の入力をお願い致します



■BUKATOOL登録のお願い

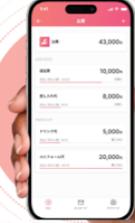
部活動費管理ツール

野々市市 合唱部
保護者の皆様



部費に関するお手続きをワンストップで！

- 01 クレカで部費をいつでもお支払い
- 02 過去のお支払い履歴を確認
- 03 お知らせ通知でお支払い漏れを防止
- 04 部活からのお知らせを確認



利用・登録方法

STEP.1
新規会員登録



STEP.2
メール認証



STEP.3
管理者の承認



STEP.4
登録完了



*携帯キャリアメール（docomo/ezweb/au）以外でご登録ください

サービス登録はこちらから！
QRコードを読み取り、サービスの利用登録してください。
WEBアプリのため、ダウンロード不要です。SAFARI、CHROMEで一度ログアウトの上、SAFARIはホーム画面追加、CHROMEはメニューからインストールください。



【保護者向け説明会資料】

出典:近畿日本ツーリスト部活動敵に事務局

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【朝礼風景】



【ランニング】



【全体ストレッチ】



【生徒（手前側）、大学生指導者（奥側）】

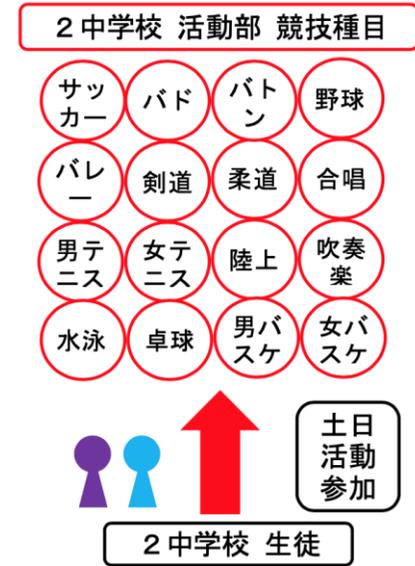
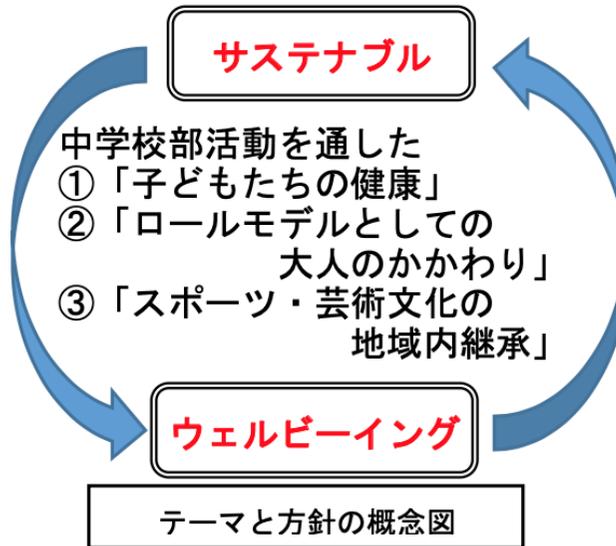
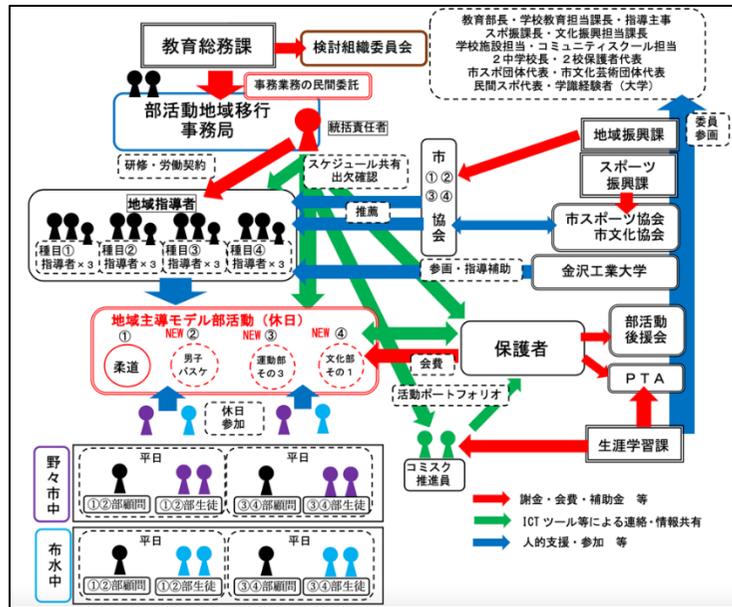
2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



地域主導による土日の活動ができる部活動数

年度	※当初の目標	実績値
令和5年度	1または2	1
令和6年度	4	2
令和7年度	8	4 (目標)
令和8年度	16	8 (目標)

※野々市市 部活動における持続可能な体制づくり推進計画 (令和5年4月策定) より

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

石川県津幡町

自治体名：石川県津幡町

担当課名：生涯教育課

電話番号：076-288-2125

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	110.59 km ²
人口	37,512 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	1,051 人
部活動数	35 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置なし
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和6年度より初めて部活動地域移行を行う。現在、津幡町では野球、ソフトテニス、男子・女子陸上、男子・女子バレーボールなど合計35の運動部活動が津幡中学校・津幡南中学校の2中学校でそれぞれ活動している。そのため、津幡中学校のみで活動する部活動や、津幡南中学校のみで活動する部活動があるが、通学先が異なる生徒でも所属したい部活動のある中学校で部活動を行うことはできる。

今年度より、津幡南中学校の相撲部の休日部活動地域移行の取組を行った。また、令和7年度より津幡中学校の男子バドミントン部が募

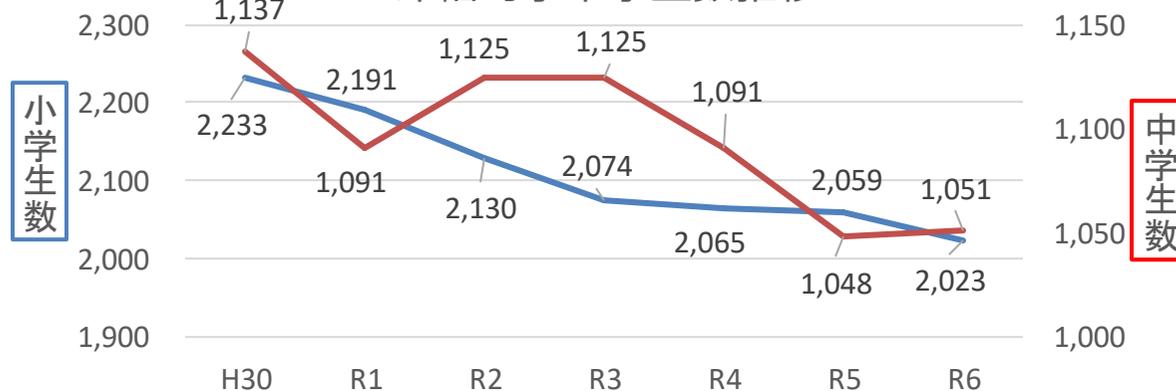
集を停止する。

平成30年と令和6年とを比較すると、津幡町の小学生の合計人数が210人減、中学生の合計人数は86人減少している。

今後も少子化のために児童・生徒数は減少していくことが見込まれており、部活動の維持をするのは困難となるものと考えられる。

地域で中学生がスポーツに親しめる場を用意できるように、町内の各種競技団体と連携し、部活動の移行を進めていくためにも丁寧なプロセスを踏んで、各ステークホルダーの理解と協力のもと地域移行を進める必要がある。

津幡町小中学生数推移

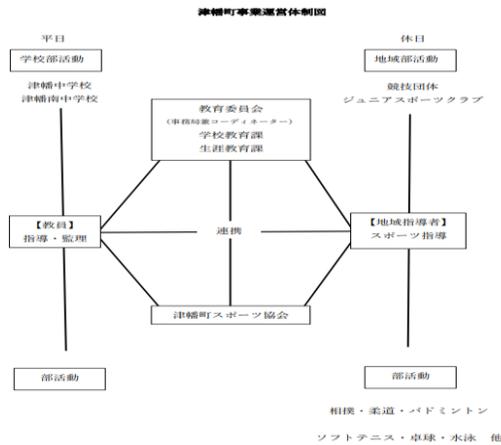


出典：津幡町教育委員会

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生徒、保護者への説明会の開催
- ・教員への説明会および地域指導者と教員との連携構築

◎首長部局

- ・事務局、コーディネーター・競技団体、ジュニアスポーツクラブとの連絡調整
- ・学校施設や体育館のスケジュール調整・保険加入や指導者への報酬支払
- ・アンケート調査・スポーツ協会との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月	相撲部との打合せ及び休日の地域移行開始
令和6年6月～12月	各種競技団体との打合せ
令和6年12月	男子バドミントン部の地域移行について津幡町バドミントン協会との協議
令和7年1月	相撲部聴き取り調査、実績報告
令和7年1月	津幡町バドミントン協会と男子バドミントン部の翌年度からの平日・休日の地域移行の開始を確認
令和7年2月	サッカー協会と部活動の地域移行について協議を開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
津幡町少年相撲教室	津幡町相撲連盟	相撲（新）	月約10回 週約2回	午前8時30分～11時 または午後1時30分～4時	1年生4人 2年生2人 3年生4人	4月1日～3月31日	津幡町総合体育館相撲場	4人	4人 (内、兼務4人)	月の活動内容に応じてその都度算出して徴収	中体連：部活動 その他：部活動もしくは地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

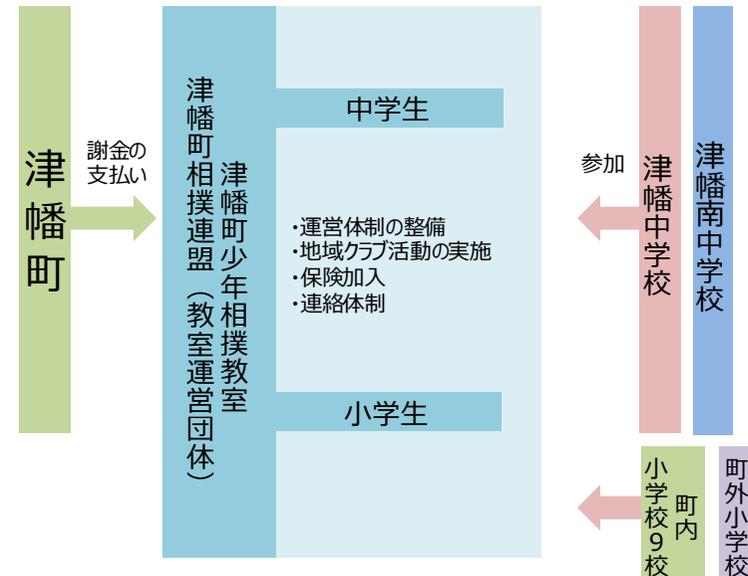
2.実証内容と成果

主な取組例

津幡町少年相撲教室 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	相撲
運営団体名	津幡町相撲連盟
期間と日数	4月1日～3月31日 月約10回 週約2回
指導者の主な属性	公務員 (特別支援学校教員・町役場職員) 会社員
活動場所	津幡町総合体育館内相撲場
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	月の活動内容に応じて その都度算出して徴収
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●監督(中学生)

役割：活動における責任者として、学校、保護者との連携を行うほか、
主な競技指導を行う

●コーチ 3名(内1名小学生監督)

役割：監督の補佐として、競技指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

コーディネーターを配置し、相撲部と中学校などの連絡調整に伴う業務や、各種競技団体との連絡・調整を行う。

また、指導者への謝礼金の支払事務を行う。

取組の成果

相撲部の休日部活動移行がスムーズに行われ、所属生徒への聴き取りにおいては、不満の声は聞こえなかった。中学校とクラブ間においても特段の混乱はなく、移行できた。

令和7年度から男子バドミントンの地域移行のための協議を津幡町バドミントン協会と行うための連絡を調整を行い、令和7年度からの地域移行について、協力体制の構築が可能となった。

その他の競技団体とも協議を重ね、地域移行に向けての課題点等を明確にし、前向きな協議ができている団体もある。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・相撲の地域クラブと中学校との連絡調整を行い、スムーズな連携に努めた。
- ・各種競技団体との協議の場を設けるための連絡・調整を行い、協力体制の構築の一助となった。

今後の課題と対応方針

地域移行に協力的な競技団体だけでなく、協議にも難色を示すような団体もある。継続的に協議を重ね、部活動地域移行の趣旨を理解していただき、協力を要請する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設を利用するためのルールを策定し、使用料免除の手続きを学校開放事業を行っている（一社）津幡町スポーツ協会に対して行う。

取組の成果

今年度においては、学校施設を利用するような部活動の地域移行がなかったが、来年度から男子バドミントン部が地域移行する際には学校の体育館を利用することもあることに加え、今後は他の部活動も学校施設を利用することが予想される。その際に、施設利用における利用料の免除について、どの団体が部活動地域移行を受け入れている団体なのかが、学校開放事業を実際に受託している（一社）津幡町スポーツ協会では判別しにくいという意見が（一社）津幡町スポーツ協会から出た。それを受けて施設利用申請時のルールを（一社）津幡町スポーツ協会と相談し、部活動地域地域移行を受け入れするクラブが利用申請を行う際は、当該クラブから津幡町教育部生涯教育課に施設利用申請を提出してもらい、当課が当該クラブが部活動地域移行を受け入れするクラブであることを認めたらうで、当課から（一社）津幡町スポーツ協会に利用申請を提出し、当該クラブの使用料を免除とすることを（一社）津幡町スポーツ協会と確認した。

今後の課題と対応方針

部活動地域移行クラブが今後増えていくに従って、活動場所の取り合いとなってしまうこと見込まれる。そのため、（一社）津幡町スポーツ協会とも協力し、活動場所の確保に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度、初めて津幡町として中学校部活動の地域移行を行った。津幡南中学校の相撲部をモデルケースとして休日のみを地域移行とする取り組みを行い、現時点では特段の混乱なくスムーズに休日の地域移行が図れたと考えている。

また、相撲以外の競技団体との協議を重ねた結果、来年より新たに男子バドミントン部の地域移行を行える見通しが立った。コーディネーターの働きを含め、協議を通じて部活動地域移行への理解・協力を引き出した結果と考えている。

一方で、指導者や活動場所の確保が難しいために、現時点ですぐに部活動地域移行を始めるのは困難という部活動も多く、今後も引き続き競技団体と協議を重ね、部活動地域移行をスムーズに行えるように協力体制を築く必要がある。

●成果の評価

津幡南中学校の相撲部の休日の部活動地域移行を行い、生徒・指導者・保護者・中学校からは特段の混乱したとの意見もなく、スムーズに休日の部活動地域移行ができたと考えている。

コーディネーターが各団体等との連絡・調整を行いながら、協議を重ねた結果、募集停止となった男子バドミントン部の地域移行を津幡町バドミントン協会が引き受けてくれることとなった。他団体とも協議の結果、早期の地域移行に向けて競技団体内で調整や、地域移行クラブ立ち上げに向けた話し合いを行うことができたために、部活動地域移行の機運が高まりつつあると考えている。

●今後に向けて

来年度より、休日だけでなく平日の地域移行を男子バドミントンで行うこととなり、施設の確保や保護者の負担、クラブの責任など、新たな課題が出てくるものと思われる。男子バドミントンの状況を確認しながら、課題や解決方法を探っていきたい。

また、今後地域移行クラブが多くなるにつれ、活動施設の確保はますます難しくなることが予想される。部活動地域移行クラブの活動における場所の確保のために、町内の体育館施設の管理者とも協議を重ねる必要がある。

参加者の声

●参加者の声

中学1年生

以前までは、津幡南中学校にしか相撲部がなく、相撲を続ける場合は、校区外へ進学する選択肢しかなかったのですが、地域移行のおかげで校区内の津幡中学校に進学しても相撲競技を続けることができ嬉しいです。

中学3年生

津幡南中学校には、相撲競技専門の顧問の先生がいないので、地域移行で専門の指導者に指導してもらうことで、より稽古に集中できる環境が整ったと思います。後輩の小学生たちも、進学先を変更しなくても相撲を続けられるのでいいと思います。

監督

これまでも本クラブは、小学生中心の地域スポーツクラブとして活動しており、中体連主催の大会以外には、中学生も津幡町少年相撲教室として参加していましたが、津幡町はまず休日の部活動地域移行を進めていくとのことで、これまでは無償での指導でしたが、謝金をいただけることになり、大変感謝しています。相撲競技は、中体連主催の全国中学校体育大会が2027年から実施されないため、同年からは平日も部活動ではなく、津幡町少年相撲教室として地域主体の活動を行う予定です。

コーチ（小学生監督）

相撲を続けたい小学生が友人と離れたくない、保護者からは校区外の中学校への進学はしたくない、などの声がありましたが、地域移行により、あまり環境を変えることなく競技を続けれるようになったことはとても良かったです。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【相撲練習】



【相撲練習指導風景】



【相撲練習 2】



【相撲練習指導風景 2】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討開始

受け皿団体や
指導者の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和6年

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の拡大

令和5年

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体
町長部局、町教委、コーディネーター

●経過

令和5年度より、部活動地域移行を行える部活動がないか、各部活動や競技団体と協議した結果、相撲部の休日地域移行を令和6年度より行える見込みとなった。

●実施内容

令和6年4月から津幡中学校、津幡南中学校に通う生徒は地域クラブに参加できることとした。活動場所は津幡町総合体育館内相撲場とした。休日のみの地域移行とした。

●生徒、保護者への説明

生徒、保護者への説明を行った。両者からは特に不満の声はなかった。

令和6年

●活動開始

休日の活動については、指導者に一任したが、混乱はなくスムーズに移行できた。生徒からも相撲に取り組みやすくなった、と好意的に捉えられている。

●活動の拡大

令和7年度から新たに男子バドミントン部の地域移行に向けて津幡町バドミントン協会と協議を重ね、理解と協力を得る。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典：津幡町教育委員会